

勢陽五鈴遺響

首卷上中下
總論

內務省圖書
第一〇七二五號
和書部地理類
函
冊 十四共

內務省圖書
和書部地理類
二九〇一九號
函架冊

和書門
二九〇一九
函架冊

內閣文庫		
番號	和	29019
冊數	40 (1)	
函號	172	310

地三三



肉叶

以布石

半

人

人

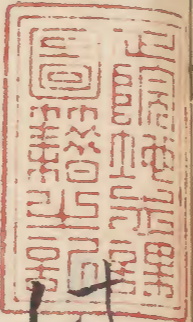
福

福

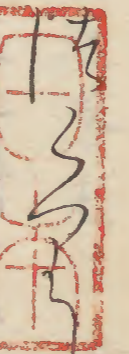
福

福

福

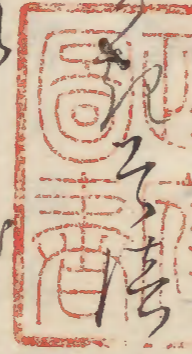


しゆみ



十人の由り理よるたね

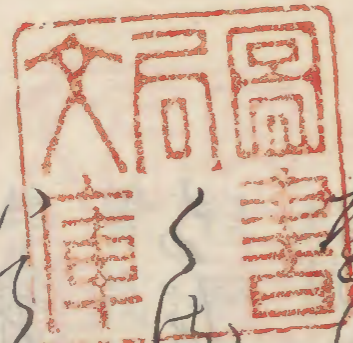
半三書



てよとひやよはくしてあは

あけさししむえははこのまは園の

くはをねほやけささくのあみもは



いさかきあはけさるるあまさくはにま

まふさるさかよんをひれあははいてまり乃

ほと見えあははさるるまははははははは

知らざる人のうらまへをいはむ者
するまははるもなけれはるゝておこ勢ふま
こ中もちちてはあつてももちおこは返
あはれ心ちかきもあつてはるゝておこは返
まゝその志もはるゝておこは返

一 禰宜正三位荒木田神主守訓卿

五 鈴遺響首之卷上

國號總論

夫顧フニ伊勢ノ國名曰遠ナルハ人王第一神武

天皇ノ朝ヨリ稱ス処ナリ日本書紀神武天皇紀

曰如年伽筮能伊齋能宇淤能於費異之珥夜異波

臂茂登倍屢之多懷淤能阿語豫之多太淤能異波

比年登倍離于智互之夜莽勢此大御歌ニ始テ其

名ヲ見得タリ○日本垂仁紀曰天照大神誨倭姫

命曰是神風伊勢國則常世之浪重浪飯國傍國可

怜國也欲居是國故隨大神教其祠立於伊勢國云

○倭姫命世紀曰惟昔大神乃御誓願比給比天豊



葦原乃瑞穗乃内仁伊勢加佐波夜乃国波有美宮
所利止見定給比從天上志且投降居給宇天逆大
乃逆鉾金鈴等是也甚喜於懷比天言上給比支云云
○世本倭姬世紀曰爰尔倭姬命尔詔久朝乃日来
向宇国夕乃日来向宇国浪乃音不聞国風乃音不
聞国弓矢鞞音不聞国打摩伎志賣留国敷浪七保
乃国之吉国神風伊勢之國波百傳宇度會乃縣乃
佐許久志吕五十鈴乃宮尔鎮理定理給登国保伎
給支云云○万葉集曰神風乃伊勢乃国者国見者
之毛山見者高貴之河見者左夜氣久清之水門成
海毛廣之見渡島乃名高之已許乎志毛間細美香
母○又曰神風能伊勢国者奥津藻毛靡足波尔塩

氣能味香乎禮流国尔味凝能文尔乏寸其餘二
三猶同是各神風ノ伊勢ノ冠夕儿辞ノ始ナリ
氏謂一也○總国伊勢国風土記曰伊勢国者天御
中主尊之十二世孫天日别命之所平治天日别命
神倭磐余天皇自彼西宮征此東州之時隨天皇到
紀伊国熊野村于時隨金鳥之導入中州而到於菟
田下縣天皇敕大伴日臣命曰固逆黨膽駒長髓宜
早征罰廼天日别命曰国有天津之方宜平其国早
賜標劔天日别命奉敕東方入數百里其邑有神名
伊勢津彦天日别命問曰汝国献於天孫哉荅曰吾
覓此国居住日久不敢聞命矣天日别命發兵欲戮
其神于時畏伏啓曰吾国悉献於天孫吾不敢居矣

天日別命令問曰汝之去時何以為驗啓曰吾以今
夜起八風吹海水乘波浪將東入此則吾之卻由也
天日別命整兵窺之比及中夜大風四起扇舉波瀾
光曜如日陸海共朗遂乘波而東焉古語曰神風
伊勢國常世浪寄國者蓋此謂之也天日別命壞築
此國復命天皇天皇大歡詔曰國宜取國神之名號
伊勢為天日別命之村地因賜宅地于大倭耳梨之
村焉○一本注曰伊勢津彥神近令住信濃國云云
○釋日本紀大槩前記二從テ相同ト云工臣延
長風土記二一毫毛不差故二贅人○延長伊勢風
土記曰夫伊勢國者始領伊勢津彥命神武天皇勅
詔天日別命曰有國天津方宜平其國印賜標劍天

日別命問曰汝國悉獻天孫哉答曰吾覓此國居住
久不敢聞命矣天日別命發兵欲戮其神于時畏伏
啓曰吾國悉獻於天孫吾不敢居矣天日別命令問
曰汝之去時何以為驗啓曰以今夜起八風吹海水
乘波浪將東入此則吾之卻由也日別命令整兵窺
之此中夜大風四起扇舉波瀾光曜如日陸國海共
朗遂乘波而東焉古語曰神風伊勢國常世浪寄
國者蓋此謂也詔曰國宜取國神之名號伊勢國云
和漢三才圖會曰往昔有神名伊勢津彥領當國
故國号伊勢其後天日別命奉神武天皇勅而來取
此國獻之云云親毅按二或識者ノ説二此國ノ
神靈ハ風土記二擬ル時ハ伊勢津彥神ナリ伊賀

風土記ニ拠レハ猿田彦神ヲ伊勢国神トスヘシ
トイエリ伊賀風土記曰猿田彦神始此之國為伊
勢佐波夜之國時二十餘万歳知此國矣猿田彦神
女回神之御神自天上投降給之三種之宝器之内
金鈴知之給云云伊勢ハ五十鈴ノ訓畧ニシテ素
湊ヲ約ノ瀬トスル時ハ伊勢ト称スヘシト云是
今世本伊賀国風土記ニ此文ナシ風土記ハ殘冊
ナル時ハ異本ニ存スト云ヘシ然レ此ニ謂フ処
ハ前世伊勢風土記ニ拠テ伊勢津彦神ヲ国神ト
スル回習ヲ排斥スルニ設タル妄誕也其国神ハ
猿田彦及ヒ伊勢津彦ニモ非スト云ヘシ其故ハ
猿田彦大神ハ皇孫降臨ノ條ニ日本總國ノ地神

トスヘシ五十鈴河上ニ退居ノ時ハ宇治ノ土公
ト後裔称スルニ至レリ古事記曰其猿田昆古神
坐阿邪訶云云阿邪訶ハ一志郡阿射加神社是ナ
リ本州總土ノ神ニ決シ難シ又伊勢津彦ハ後ニ
辨スル如シ其鹵莽ニノ徴ヲ得ス猶国神ト称ス
ハキハ天日別命ニノ神武帝朝ニ国造ニ命セラ
ルニ拠テ伊勢風土記曰置深神社大日本根子彦
国引天皇元孝五年辛卯三月所祭天日鷲命也ト即
本州安濃郡産品村ニ延喜式内置始神社是ナリ
天日鷲命ハ天日別命ノ別名ニノ置始ハ置深ニ
相同ク本州ニ国神ヲ祭祀スル始ナリト云意ナ
ルハニ北畠權大納言材親卿多氣窓堂曰む

伊勢伊勢を忌東此國なり日鷲命此國つくりのこを
川おやなをとれ下官は國なりははより此國れよりめ
な係神いゝく敬する人と度會な係後延よからしむを
多氣まゝ川りま川に近にあらはれぬをれ禮をいぬ
川きく家司等いたるかひきこくこみく多氣の國也
乃社となんぬり川きく中御門右府の考れらるる
國津神と父なり扱たりとなんえしけりたすむへし云
此ヲ以本州ノ國祖神ハ猿田彦大神伊勢津彦命
ニ必トシテ定難ニ姑ク天日別命國造ノ神ト奉
テ稱スヘシ○和歌諸抄ニ神風伊勢國ノ冠辭ハ
大神ノ御惠ノ限リナキヲ譬喩シテ云意ナリト
云ハ是倭姫世紀豊葦原瑞穂國之内伊勢加佐波

夜國有美宮処ト云々異ニノ穿鑿ニ及ヘリ世記
所載ハ唯海隅ノ國ニノ迅風ノ常ニ多キヲ謂ヘ
シ敢テ神慮ヲ表スルニ非ス所謂常世浪重浪帰
國ノ傍國ノ可憐國朝日来向國夕日来向國浪音
不聞國風音不聞國弓矢鞆音不聞國打摩伎志賣
留國敷浪七保乃國之吉國等ハ其國ヲ贊美ノ名
ナリ敢テ神風ノ冠辭ノ意ナシ或ハ神風伊勢國
風波夜伊勢國等ノ名ハ重浪ノ風ニ吹寄ルハ皴
文ヲ生ノ俗語ニイセルカ如キ状ヲ以伊勢ノ名
起レリト稱スルハ亦復妄ナリ清輔奥儀抄曰伊
勢トハ五十瀨ト云義ニノ河多キ國ナレハ名ク
ト解夕リ是鈴鹿川八十瀨乃浪等詠スル処ヲ徵

トノ此国ニ河洳多シト誣クルナリ其河流ニ扱
テ名ク処トセハ越後州ハ水国ニシテ河沼甚多
レ其名ニ非ルハ惟ヘシ五十八伊ノ訓ニノ数ノ
多ノ字ニ非ス萬葉集ニ假用ノ訓セリ五十鈴ノ
訓ニ同シ其餘伊勢ニ神風ヲ帶スルハ伊ハ息ナ
リ風ノ吹出ルハ天地ノ息ニノ伊吹戸主神ノ名
ニ同シ故ニ神風ノ伊勢ト謂ナリ是牽強トスヘ
シ伊ハ息ニ通ス時ハ勢ノ字義ハ解シ難シ或云
人倫ノ生育スルハ伊勢大神ノ神力ナリ故ニ伊
勢ノ二字ハ人平ニ生ルハ九カ力ト謂ヘキヲ伊
勢ノ字ニ併セ作りタル神勅ナリト云考ルニ伊
ハ从人从尹平ニ非至勢ハ偏ナルハ从幸生ニ非

ス草書ニ俗ノ認ム更知テ真隸ヲ不辨愚昧ノ言
ナリ是ニ扱テ伊勢ノ二字ヲ神符ニ書メ妊婦ニ
服セシム能ク易産ト謂モ是ナリ或本朝社語曰
伊勢則五瀬ノ二字之和訓出自五十鈴河之名也
是日本書紀曰彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊以其姨
玉依姬為妃生彦五瀬命此国ニ主宰タルヲ以テ
国號ニ其名ヲ冒スルニ起レリト云五瀬ハ日本
記訓讀ニイフセニ作ル猶五十鈴ハ其国始テ興
テ後ニ山河ノ名ハ出ヘシ国號ナキニ何ソ山河
ノ名ヲ賞スヘキト謂ヘシ各至當ト謂難シ度會
常藪奇居通曰引風土記天日别命奉勅東方入数
里有神名曰伊勢津彦中畧詔曰宜取国神之名号

伊勢ト出釈日本記然レ氏神武帝以前神代已ニ
此国號アリシ時ハ伊勢津彦ニ權興氏ニ難ニ神
代卷曰衢神對曰聞天照大神之子今當降行故奉
迎相待吾名是猿田彦大神時天鈿女復問曰汝將
先我行乎抑我先汝乎對曰吾先啓行天鈿女復問
曰何処到耶皇孫何処到耶對曰天神之子則當到
筑紫日向高千穗摠觸之峰吾則應到伊勢之狹長
田五十鈴河上云云伊勢ノ名既此ニ見エタリ○
伊勢物語髓腦曰伊勢トハ男女ナリ男女ノ名ヲ
立タリトイヘリ○一説曰五音開合ニ伊勢ノ二
字陰陽ニ合ノトイヘリ○真名伊勢物語曰妹背
因ト書是伊勢ハ妹背ノ畧語トイヘリ○一説曰

伊勢二宮大神宮ハ迷火陰陽ナリ陰陽ハ夫婦ニ
ノ即妹背ト云畧ノ伊勢ト名クトイヘリ○山崎
垂加草曰伊勢ハ則五瀬ノ二字ノ倭訓出自五十
鈴河之名也トイヘリ○一説曰神武帝ノ庶兄五
瀬命領主于此国因之立名トイヘリ○愚按ニ前
書各僻説ナリ伊勢津彦ト謂フ時ハ伊勢ハ音讀
ナリ神代ノ国名音ヲ以呼ヘカラス伊勢津彦ト
ハ何ニ號スル事ヲ不知諸説信ニ難ニ憶フニ夫
伊ハ助字也○釋日本記曰易喻者ハ行也易ハ助
語也○伊輔夷符栞能明流留吹上伊ハ助語也○
万葉集曰伊緣立之御執乃梓弓之又曰山際伊
隱万代又曰射往廻流射伊共ニ助字ナリ按ニ紀

伊ノ伊モ厚顔抄ニ紀ノ韻伊ナレハ韻ヲ加ヘタ
リト云是其證トスヘシ勢ハ脊ナリ伊勢国ハ山
脊国ト云意ニテ神代自然ノ称号トスヘシ国形
北ヨリ南ニ長ク二十餘里又東ニ折テ東西六七
里或十里或十五里東西南ノ三面志摩紀伊大和
伊賀近江美濃尾張ニ接續ノ皆山ナリ唯東北ノ
一隅ニ尾三ニ對ス山海ノ間平地アリ海ハ腹
山ハ脊ナリ海腹ハ少ク山脊ハ多シ○神代卷曰
齋宮之空国自頓丘覓国行去○纂疏曰齋ハ脊也
其山形ヲ思フニ相類ス是地形ニツキ脊国ト云
意ニテ自然ニ伊勢ト呼来ルナルヘシ故ニ自国
ノ名ニ因リ伊勢津邊ト称呼シ来ルナラニ然レ

ハ国ヲ伊勢ト云ヨリ神ノ名トス曰事記曰長
甕彦是村之本號焉因亦以為人名ト云ニ同レ其
神ノ名トスルニ由テ又愈国ヲ伊勢ト称ス事ト
為ルナルヘシ是臆說ナリト云ヘ氏恐ハ風土記
ノ田説ニモ背サルヘシ又神風ノ伊勢ト連續ノ
言ハ神風ハ枕辞ナリ久方ノ天足引ノ山ノ類ニ
メ和語ノ習ナリ風土記ニハ伊勢津彦此国ヲ去
ル時四起ハ風扇拳波瀾光暉如日陸海共朗遂乘
波向東焉古語曰神風伊勢国常世浪寄国者盖此
謂之也ト言ヘリ然レ氏大神伊勢ニ御鎮座ハ垂
仁御宇ナリ既ニ神武天皇ノ御謠ニ伽牟伽筮能
伊存能宇淤能於費異之珥ト有レハ前後セル如

シ又神代卷ニ猿田彦大神曰吾則應到伊勢狹長
田五十鈴河上ト是天照大神伊勢国ニ鎮座アル
ハキノ幾ハ既ニ神代ニアリ猿田彦神五十鈴川
上ニ到テ待事有ルカ如シ故ニ神世ヨリ神風ト
續テ謂ヒ来ルナルヘシ今憶ノニ前哲各風土記
ノ所謂ニ扱テ伊勢津彦神郤居ノ時ニ四起大風
之義ニ拍泥ノ神風伊勢ノ徴トスト云ヘ凡常彰
此ニ神武紀天皇御謠ニ既ニ出ル時ハ前後ノ差
ト謂モ其卷首尾ニ所載ヲ言ナリ大畧其義ヲ所
得ト云ヘシ曰伊勢ノ国名アリテ其国ノ神名ニ
号タルナリ伊豫国ハ神世ニ既ニ名アリテ愈々
出ルノ義ヲ以テ号シ吉備国ハ其国形小ニテ黍

ニ似タルノ譬テ名ケ吉備津彦神アルカ如ク伊
勢津彦モ此ニ同シカルヘシ然レ和銅四年所撰
ニ本氏ニ後世ニ至リ湮滅シテ難得処トス世間
ニ希ニ所傳アリトス蠹簡殘冊ニテ其全卷ヲ見
ルニ難シ猶真偽相半ニテ悉ク取用ニ不足當今
所傳ハ出雲国風土記一本是否ヲ論ヒス古樸煥
然タリ其餘遺存スルハ信用スルニ難シ然ル時
ハ本州ノ所紀相同シ風土記舊説トスルニ從ヒ
難シ猶伊勢津彦命倭姫命世紀曰活目入彦五十
狹茅天皇廿五年丙辰三月皇太神奈尾之根宮在
給于時出雲神子吉雲建日子命亦一名伊勢都彦
神一名櫛玉命云云五十鈴河後江尔天進御饗云

大治丁卯年度會章尚校本ナリ世本伊勢都差神
ニ作ルイツレ章尚本ハ古撰ニメ信スヘシ然ル
ニ垂仁帝朝ニ伊勢都彦ノ名アリ其歴世稍ク差
ヘリ若此神ニ同體トスル時ハ神武東征ノ時ニ
異ナリ風土記ト矛盾スルニ及ヘリ又神武天皇
御謠ニ推輿スル時ハ公然ニメ誣難シ其神世ヨ
リ所傳ノ言処トスルハ臆断ニメ其徴ヲ得難シ
其伊勢ト称スルハ猿田彦大神卻居ノ地ハ伊勢
狭長田五十鈴川上ト神峇ニ拠ル時ハ神世ニ其
名ナキ処ニ指スヘキナシ地名存スルニ拠テ其
地ニ退去ノ処ヲ指スノ言ナリ然ル時ハ伊勢五
十鈴ノ二名ハ存スル処ト解シタルナルヘシ伊

勢ノ名義ハ區々タル俗説ハ容難シ其地形ノ山
嶽ヲ背ニ帶フニ拠テ勢ノ国ト称スヘシ伊ノ助
辞ニメ紀伊ノ例ニ相同ト云ハ今古ノ確論ナリ
猶案スルニ木国ニ雷同ノ曰ハ勢国ト謂ヘキヲ
紀伊伊勢ニ填ルハ續日本記曰和銅六年五月詔
曰畿内七道諸国郡縣名著好字又延喜民部式曰
凡諸国部内郡里等名並用二字必取嘉名ト詔令
ニ拠テ二字ニ作ルモ測難シ其故ハ日本神代記
曰素盞鳴尊之子曰五十猛命妹大屋津姬命吹爪
津姬命凡此三神亦能分布木種即奉渡紀伊国也
是ニ由テ木ノ国ト称シ今紀伊ト填ルハ神武天
皇御謠ニ伊存及猿田彦神峇ニ伊勢ト二字ニ填

ルモ各日本書紀ノ真字ニ改正スル時ニ作リタ
ルナルヘシ勢ノ国ヲ以テ曰名ト惟ノニ前ニ載
ス山嶽ヲ後ニスルノ謂トスルハ至當トス然レ
氏猶詳サルニ似リ常彰曰伊伊ハ山脊国ノ意ト
云ハ今山城国ヲ日本書記ニ山背ト作レリ山ウ
シロノ畧省ナリ日本紀畧曰延暦十三年十一月
詔此国山河襟帶自然作城因斯形勝可制新号宜
改山背国為山城国是桓武天皇ノ朝ニ革リタル
処ニテ其前ハ日本神代記曰天津彦根命是河内
直山背直等祖也同神武紀曰山背国内村俯見村
同天武紀曰山背直賜姓曰連同十四年紀曰
山背忌寸續日本後記曰山城国人山代忌寸後

ニ山代或山城等ニ轉レリ既ニ神代紀及神武
天皇紀ニ山背ノ二字ニ填ルハ紀伊伊勢ニ同シ
其山背ノ名義ハ山嶽ヲ背面ニシテ所置ノ国號
ニ非ス東西北共ニ山嶽アリ背面ノミニ限ラス
是大倭州ヲ最第一ノ神武帝都ノ始原ナルニ拠
テ主寄トノ大倭ヨリ指ス時ハ其山城国ハ山嶽
ヲ隔テ大倭国ノ背面ニアリ故ニ山背ノ名ヲ冒
タルト謂ヘシ是ニ例ノ伊勢モ大倭ヨリ指ス時
ハ背脊ニ在リ故ニ脊国ト謂フニ勢ノ字ヲ假用
スルナルヘシ既ニ山ノ後ナル帝都ヨリ北ヲ指
メ山背ト言フ時ハ本州モ山背ト言ヘシ然レ氏
同名ナルカ故ニ脊ノ国ト謂ヒ二字ニ作ルカ為

ニ伊勢ト助辞ヲ加ヘタルナリ脊ハ大倭国ヨリ
ウシロノ国ト何ノ拠ナク上世ヨリ称セルト惟
ヘリ前ニ辨ス地形山ヲ脊トシ海ヲ腹トスルノ
言ニ拠レハ山城ハ山後ノ意ニノ解ニ易シ伊勢
ノ所謂ハ山脊ノ二字ヲ填ナル時ハ其言ヲ尽セ
ルニ非ス然ル時ハ山城ニ相同ノ混ニ易シ是地
形ノ謂ニ非ス其地ノ帝京ノ後ナルノ謂ヲ以テ
称スヘキニ足レリ上件ノ確論古今未だノ処ヲ
標ストイハレ未詳ノ其壺奥ヲ探ルニ至レリ惜
ムハニ猶後ニ至リ神代日本書記等漢字ニ作ル
ハ清原因賢勅本日本神代記奥書曰按應神天皇
以還至繼體天皇御宇異域典籍多以雖未朝不解

其義徒經三百有餘歲矣惟古天皇御宇聖德太子
察三才之源遠三国之起故始以漢字附神代之文
字傍云云是此時ニ木ノ国勢国ノ字ス処モ其韻
其助字ヲ添テ二字ニ作ラルナルヘシ後世ニ出
雲郷名斐伊○古事記ニ肥○日本記ニ簸○出雲
風土記ニ斐伊ニ作ル○大隅贈答郡日本記ニ
襲国今曾於二字ニ作ル○和泉呼喚郷古事
記及延喜式男ニ作今於喚ト呼フ○三河国宝飯
郡田ハ穂今襲美ニ作ル○備中州郷名茅翳田ハ
茅^ヒ_リ音翳ヲ添テ二字トス○肥前基肆郷遠江
渭伊郷田ハ基及渭ナルヘシ今并伊ニ作ル肥
後昆伊郷同シ○備中都宇郡薩摩州隸娃郷都江

ノ曰名ニ字乃ノ二字ヲ添ル○備後意郷後ニ斗
意○日向觀郷後ニ都於石見州都郷都於ニ作ル
各此例ナリ地名字音轉用例ニ詳ナリ然ル時ハ
神世ニ存スル伊勢ト二字ニ填タル同名ニ非レ
テ其漢字ニ作り換ルニ扱テ伊勢伊齊ノ字ハ起
リタルト惟フヘレ前ニ載ス續日本記及延喜式
等ノ詔令ヨリ以前ニ推古天皇ノ朝ニ二字ニ填
タルハ猶有タルナリ旧事記古事記等ニ所載ノ
如レ持統帝朝ヨリ後日本書記ノ撰ニ於テ更ナ
リ是ヲ以勢国ヲ本原ニメ其餘ハ容難シト謂ヘ
レ

建置總論

伊勢国ハ曰十九郡ヲ所置ニメ四郡ヲ割テ後ニ
伊賀国ヲ置ルナリ世本伊賀風土記曰伊賀国
者往昔屬伊勢国大日本根子彦大珉天皇御宇癸
酉分而為伊賀国本此号者伊賀津姫之所鎮之國
也仍為郡名亦為國名然レ正續日本記曰伊賀国
者天武天皇白鳳九年庚辰七月割伊勢国四郡立
彼国ト載ル時ハ風土記ニ差ヘリ是倭姫命世紀
鰲頭曰按国造本記曰伊賀国難波朝御宇隸伊勢
国飛鳥朝代割置如故曰然則根本兩國而中間為
一國又割兩國天武朝始非割兩國歟難波宮朝即
仁德天皇ノ時ニメ本州ニ隸屬スル処ヲ飛鳥宮

天武天皇ノ朝ニ割置ハ如故ト云時ハ田八二州
ニ分置ト云ハ仁德帝ノ時ニ本州ニ隸シ又再
天武帝朝ニ分置ニ似リト謂ナリ其故ハ崇神天
皇六十四年丁亥霜月廿八日皇大神遷幸伊賀国
隱郡市守宮二年奉齋此ニ拠テ崇神朝ニ伊賀国
郡ノ名アリ仁德朝ニ本州ニ屬シ又天武朝ニ分
置処ニメ始テ分置処ニ非スト謂ヘシ日本書
持統記曰在伊賀国紀臣阿閉臣等此ニ拠時ハ持
統天武ノ二朝分割ノ又建置ス処ト謂ヘシ然ル
時ハ田八別国ニメ後ニ本州ニ隸シ復別国トス
是国造本記ト伊賀風土記ハ雷同スルノ説ナリ
本此号者伊賀津姬之所鎮之國也仍為郡名為國

名ト云時ハ伊勢津彦天日別命ノ所領ニ非ス上
世ハ別国ニメ孰レ後ニ本州ヨリ分置ト知ヘシ
其四郡ハ今阿拜郡山田伊賀名張郡是ナリ又武
烈天皇朝ニ二郡ヲ割テ志摩国ヲ分置今荅志莫
震ノ二郡ナリ本州ニ隸屬スル処ハ其餘十三郡
ニメ所謂桑名負辨朝明三重鈴鹿河曲菴藝安濃
一志飯高飯野多氣度會是ナリ延喜式及和名
類聚抄曰伊勢国府在鈴鹿郡行程上四日下二日
管十三田万八千百三十町六段二百四十五步正
公各四十万束本稻八十八万千束雜稻八万千束
粟名負辨朝明三重河曲鈴鹿菴藝安濃壹志飯高
多氣飯野度會今ノ如シ○拾芥抄ハ河曲郡ヲ省

テ十二郡トス又此十二郡ニ錦島多度御座島ヲ
増加ノ十五郡トスアリ○勢陽府志曰伊勢国十
三管アルヲ十五郡トス○伊勢名所拾遺和歌集
曰割飯高安濃二郡置南北東西二郡因茲為十五
郡是飯南飯北安西安東ナリ○俗談ニ本郡十三
管ニ錦島多度ヲ増ノ十五郡ニ作ルアリ延喜中
既ニ十三管ニ載ル時ハ其本拠ハ誣難ニ十二管
ニ作り及錦島多度御座ノ三処ヲ増ノ十五管ニ
填ツルハ錦島田昔ハ本州ノ所隸ニ今紀伊州
牟婁郡ニ属セリ多度ハ本州桑名郡所屬ニ今
然リ即多度村ニノ稍ク一邑ノ名ニ遺レリ憶フ
ニ錦島ハ今錦浦ト称ノ多度ニ同ク一邑ノ遺存

スル処ト云ヘ凡本州度會郡南海瀕ハ旧時ハ錦
島ノ名ヲ惣裁ノ一郡ノ名トシ或ハ志摩州ニ隸
シ今紀州ニ属スカ如シ多度モ然リ田ハ多度山
ノ際畔ハ多度ノ名ヲ惣裁ノ一郡ノ名ニモ及ヘ
シ今方俗桑名郡ヲ横郡ト称シ或多度郡ト呼フ
ニ相同シ横ノ謂ハ負辨郡ニ對ノ其縦ニ所置ニ
拠レリ是各私称ニノ公スルニ非ス然レ凡旧時
ニ称呼セシ処ノ遺習ナリ又御座島ヲ増加スル
ハ其徴ヲ得ス本州ニ其地名ナシ志摩州莫婁郡
ニアリ本州度會郡南海ニ通シ臆断スルニ志摩
田昔ハ本州ノ隸屬ナリ故ニ其本郡ハ十三管ニ
ノ或ハ時世ニ應シ十二或十五ニ増減ノ所置ナ

リト知へし或紀伊及志摩ニ混スル地古昔多シ
内宮別宮瀧原宮延喜式曰去大神宮西六十里在
伊勢與志摩堺山中是今ハ度會郡ニ屬セリ又
山家集詞書曰いせのへちの糸一きの崎よいそ
をねおまのちりくををト載ス○世本万葉集麻
績王流於伊良禰島時之人哀傷作歌打麻乎麻績
王云云注曰日本紀曰天皇四年四月三位麻績王
有罪流于因幡一子流伊豆島者若疑流血鹿島也
是曰配于伊勢国伊良禰島者疑後人縁歌辞而誤
記乎是今三州渥美郡ニ屬セリ旧時ハ郡縣相混
シ後世ニ變革スルアリ即本州ノ係ル処ニ憶ヘ
リ摠シテ此例多シ延喜式所載ハ今ノ海南ノ地

ヲ志州ニ屬スルカ如クニ記セリ是傳寫ノ誤ニ
ハ非ス今古ノ沿革次條ニ詳ニセリ猶後季ニ至
リ領裁ノ他州ニ屬スルハ有ヘシ是時世ニ從テ
然リ後號府治ノ摠論ニ詳ニセリ

郡縣總論

日本書紀大化二年詔曰凡郡以四十里為大郡三
十里以下四里以上為中郡三里為小郡云云同
曰凡五十戸為里云云按ニ唐令曰百戸為里五
里為郷トミエタレ凡我邦ハ此例ナシ唯郷里別
十キニヤ延喜民部式曰凡郡不得過千戸云云
伊勢国十三管其郡其縣之始置処ハ古事紀成務

御卷曰若帶日子天皇坐近淡海之志賀高穴穗宮
治天下也云云故建内宿稱為大臣定賜大國小國
之國造亦定賜國國之塚及大縣小縣之縣主也云云
按二是始原二ノ其國郡分置ル処ナリ日本天
武紀曰白鳳十二年十二月遣諸王五位伊勢王大
錦下羽田公ハ國小錦下多臣品治小錦下中臣連
大島並判官錄史工匠者等巡行天下限分諸國之
境界然是年不堪限分云云按二是天武天皇朝
二至テ再詳ニ其國郡ノ境界ヲ定置ル処ナリ○
乘名郡ハ續日本紀卷十三聖武天皇天平十二年
十一月戊申條曰至乘名郡石占頓宮云云此ニ始
見エタリ○朝明郡ハ日本天武紀曰於朝明郡迹

太川邊望拜天照大神是始ナリ○負辨郡ハ續日
本紀第廿九稱德天皇神護景雲三年五月癸未條
曰伊勢國負辨郡人猪名部文丸獻白鳩賜爵二級
當國稻五百束此ニ始見エタリ○三重郡ハ古事
紀景行御卷曰倭建命自其地幸到三重村之時亦
詔曰吾足如三重勾而甚疲故号其地謂三重是其
名ノ緣故ナリ日本景行記相同ニ○鈴鹿郡ハ其
名ノ本拠ハ日本天武紀ニ拠テ神社考ニ載タリ
鈴鹿關等ノ名アリテ歴史ニ郡名ヲ詳ニセス三
代實錄卷卅六陽成天皇元慶三年閏十月廿三日
己酉條曰伊勢國言木連理生鈴鹿山中是始ナリ
○菴藝郡ハ古事記曰倭淹知造續日本記曰豊

野真人奄智云云 按ニ奄知ハ安無木ニ轉セシ
十ルヘシ然レ氏奄知ノ名義未考○河曲郡ハ国
史ニ所考ナシ○壹志郡ハ續日本紀卷十三聖武
天皇天平十二年十一月乙酉條曰到伊勢国壹志
郡河口頓宮此ニ始テ見エタリ○安濃郡ハ三代
實録第六清和天皇貞觀四年七月廿七日甲午條
曰伊勢国安濃郡人右辨官史生正七位上瓜工仲
業賜姓安濃宿祢此ニ始テ載ス○飯高郡ハ續日
本紀卷十四聖武天皇天平十四年四月甲申條曰
伊勢国飯高郡采女正八位下飯高君望日親族縣
造等皆賜飯高君姓此ニ始テ録ス○飯野郡ハ續
日本紀卷十八孝謙天皇天平勝宝四年十月辛巳

伊勢国飯野郡人飯磨等十七人賜秦部姓此ニ始
テ見エタリ○多氣郡ハ三代實録卷廿四清和天
皇貞觀十五年十二月廿七日戊午伊勢国多氣郡
人從五位下河閉臣次子從七位下阿閉臣雄繼等
賜姓朝臣此ニ始テ見エタリ○度會郡ハ三代實
録卷三十一光仁天皇室龜六年二月丙子條曰遣
使於伊勢繕修度會郡堰溝且命行視多氣度會三
郡宜耕種地此ニ見エタリ其鈴鹿度相ノ名ハ旧
遠ニノ存ス処ト云ヘ氏郡名ニ填ルハ正史此ニ
録スルニ至ル猶後號郡邑ノ部ニ詳ニセリ十三
管ノ正史ニ載スル処ヲ挙テ其旧名ヲ標ス其縣
邑ニ至テ多ク録スナシ各條ニ出ノ此ニ贅言セ

ス其本州ヲ始テ建置スルニ来名郡ヲ首トスナ
ルヘシ其謂ハ日本書記ニ来名朝明三重等ハ餘
郡ニ抽出夕リ日本武尊天武潜幸ノ地ナル故ニ
嚮ニ所載ト云ヘレ其餘郡ニ事蹤ナキナレ国史
ニ不載処ハ稍ク後ニ至リ定置シ或ハ負辨河曲
菴藝飯野四郡ハ来名鈴鹿飯高等ヨリ分置スル
処ナルヘシ其謂ハ各平坦ノ地ニノ山河ヲ限ル
ヘキ郡堺ノ疆域ナシ惣ノ国郡ヲ建置スルニ山
河ニ拠テ其疆界ニ定夕リ故ニ山丘ヲ限リテ其
封疆トス俗ニ郡山ト称ス大倭州添下郡郡山城
府アリ是添上郡ノ分界ノ地ナリ故ニ名ク猶本
州菴藝郡郡山村アリ同義ナリ其餘總国他州猶

有ヘシ未其地ヲ詳ニスルニ違アテス郡山ノ分
疆ハ後號ニ録ス前ノ四郡ハ分置ナルヲ誓知ヘ
シ○延喜式内神社二百五十三座ノ社域ノ存ス
ル今古郡境ノ差徃々アリ是分置ノ举ニ拠リ或
ハ後世旧址ヲ遺失スルニ及テ妄ニ定建タル地
モ多カルヘシ此ニ拠テ其郡界ノ山丘ヲ闕テ上
古ノ所置ヲ知ヘキナリ同大神宮式ニ瀧原宮去
大神宮西六十里在伊勢與志摩堺山中ノ所載ハ
訛言ニ非ルヘシ既ニ本州今古遺塚變スヘキニ
非ル村邑其国ヲ建ルニ其時ノ隸屬スルト不属
ノ時アリ神鳳抄曰志摩国荅志郡伊介 土具
竈子 相可 押淵 切原 佐々良 慥柄 迫

道方錦阿曾 各大神宮ノ神戸御厨御園
ノ地ナリ今本州度會郡ニ隸メ志摩州ニ非ス○
神宮雜例集曰志摩国六十六戸云云国崎鶴倉惣
柄岡崎ハ志州莫虞郡ニ属ス其餘今本州ニ隸ス
鶴倉ハ今度會郡阿曾浦ニ属ス此ニ拠ル時ハ曰
時ハ志摩州ノ所有ナリ其郡疆ノ界ハ度會郡ノ
東南ノ極ハ志州莫虞郡南張村ニ接メ是ヨリ以
西北ハ紀伊州牟婁郡錦浦ニ至テ南海瀕ニ一條
ノ山嶽相列テ海崖ニ臨テ村居ス是上世ノ郡山
ノ形勢ニ似リ此地ノ限リテ南海ハ志州ニ属セ
シ処ニシテ後本州ニ隸スル処ナリ今志摩州荅
志郡ノ疆域ニ至テ上世本州ニ隸スル多シ附翼

志州篇ニ今古ノ沿革ヲ詳ニ載ス然ル時ハ延喜
式灌原宮志摩州界ニ在スト載ルハ誣ヘカラズ
ト謂ヘシ此地ニ到テ郡山ノ分界ハ明ナリ今本
州ニ隸スルニ田丸府城ヨリ以南ハ連山重疊シ
テ崔嵬其分界ナシ南海ニ至リ郡山ノ疆界アリ
テ其郭外ニ村邑ノ所在ハ他州ノ地ニ相似リ是
上世志摩州ヲ定置スルノ方位ナリト云ハ想像
ノ知ヘシ猶他郡ニ涉リテ敢テ疆域ノ不分ハナ
シ又他州ノ混スルモ敢テナキ処ナリ是志摩州
ハ旧本州ヨリ分置スルニ拠リ今度會郡ニ接メ
犬牙ノ地ナリ故ニ時變ニ應メ差アリト謂ヘシ
○凡本州東ハ海ヲ限リ西北南ノ三隅ハ山嶽ヲ

疆リテ隣国ノ界ヲ建置シテ東ハ尾張三河国ニ
海ヲ隔テ界ヲナシ西北ハ美濃近江伊賀大和州
ニ山嶽ヲ連テ界ヲナシ南ハ紀伊州ニ界ニ兵位
ハ志摩州ニ接ノ六州ニ界ヒリ其国郡ヲ定テ始
置処ハ桑名郡ヲ首トスルト憶ヘリ故ニ此編ニ
輯ル処其首領トスルニ及ヘリ○桑名郡疆域ハ
本州ノ北隅ニアリ其西ハ美濃州多藝郡ヲ限リ
多度山ヨリ東南ニ折ノ本郡多度美鹿古野嘉例
ノ諸邑ノ西ニ堺山列リ偃ノ糠田増田野邊ノ西
ヲ限リ負辨郡界トス堺山ハ前ニ載ス郡山ナリ
其北隅ハ美濃州石津郡ニ接シ本郡香取抽比油
島金廻尾州海西郡佐屋川ヲ限リ長島城府ノ東

葭島加稲新田ヲ界トス其東ハ海涯ヲ限リ其南
ハ本郡町屋川ノ南桑部東金井ヲ限リ下流ハ本
郡和泉ノ南町屋川ヲ界トス是桑名朝明ノ分界
ナリ○負辨郡疆域ハ本州ノ北隅美濃州土岐郡
ヲ限リ本郡古田清司原河原ノ北ニ山嶽列リ美
濃ノ界トス其西ハ近江州犬上郡ニ接シ山嶽列
リ本郡篠立山口坂本大貝戸上野尻東禪寺治田
丹生川石搏ノ諸邑ノ西ヲ界トス其東ハ本州小
原一色一瀬鼓村南北中津原宇野大泉北山田六
把野穴田五反田芳賀崎森忠星川坂井赤尾茅ノ
諸邑其北ニ郡山列リ桑名郡界トス其南本郡石
搏宇賀大井田南大社東西長更志知山城島田茅

ノ諸邑南ニ堺山列リ界トス是負辨朝明ノ分界
ナリ○朝明郡疆域ハ其西ハ近江州大上郡山嶽
ヲ限リ本州切畠ノ西ヲ界トス其北ハ本郡田口
小島保々西村市場下野北山東西大鐘千代田伊
坂廣永埋繩小向繩生北福崎等ノ諸邑ヲ限リ負
辨桑名ノ分界トス其東ハ海崖ヲ限リ其南ハ本
郡杉谷馬場竹成永井保々中野下野山城萱生垂
坂其南ニ郡山列リ吉沢羽津諸邑ヲ界トス是朝
明三重ノ分界ナリ○三重郡疆域ハ其西ハ江州
山嶽ヲ限リ本郡千草西菘野水澤ノ西ヲ界
トス其北ハ千草福松諏訪池底河北上海老原山
一色東坂部小杉東西阿倉川ノ諸邑ヲ界トス是

朝明三重ノ界トス其東ハ海崖ヲ限リ其南ハ本
郡水沢堂ヶ山羽本南北小松各水沢川ヲ限リ采
女ノ諸邑ヲ限リ界トス是三重鈴鹿ノ分界ナリ
是ヨリ東采女ノ今宿芝原南川南五味塚ノ諸邑
ヲ三重河曲ノ分界トス○鈴鹿郡疆域ハ其西近
江州山嶽ヲ限リ本郡山本小岐湏坂本池山
坂下ノ諸邑ノ西ヲ限リ其乾位ハ伊賀州阿拜郡
ニ接ノ本州加太諸邑ヲ界トス其北ハ本州山本
大久保小岐湏小社長沢岸田和田下鹿間小谷石
蒸師ヲ界トス水沢川ヲ限リ三重鈴鹿ノ分界ト
ヒリ其東ハ本郡上野高宮平田平野国府下之庄
ヲ限リ河曲郡界トス其南ハ本郡加太久我古馬

屋木下山本阿知本田茂三寺中庄諸邑其南ニ郡
山列リ鈴鹿安藝ノ分界ナリ○河曲郡疆域ハ其
西ハ鈴鹿郡ニ接ノ郡山アリ是ヲ界トス本郡山
邊ヲ削岡田箕所等ノ西ヲ限レリ其北ハ本郡国
府木田高岡中戸池田北長太諸邑ヲ界トス是三
重河曲ノ分界ナリ其東ハ海崖ヲ限レリ其南ハ
三日市安塚玉垣江島ヲ限リ河曲菴藝ノ分界ナ
リ○菴藝郡疆域ハ其西ハ鈴鹿郡ニ接ノ北ニ至
リ本郡福德萩原楠原林村楠平尾高野尾三宅長
法寺御園ヲ界トス其北ニ郡山アリ鈴鹿河曲ノ
分界ナリ其東ニ至リ稻生白子ニ限リ本郡河曲
ノ分界トス其東ハ海崖ヲ限リ其南ハ本郡林村

中繩野崎久保田大古曾上津部田大部田ヲ限リ
安濃郡界トス本郡福德ヨリ東ニ至リ久保田上
津部田郡山陸續ノ小篠川ヲ限リ本郡安濃郡ノ
分界ナリ○安濃郡疆域ハ其西ハ伊賀州ノ山
嶽ヲ限リ本郡河内草生船山高座原穴倉柳谷北
長野平木諸邑ノ西ニ至リ界トス其北ハ河内北
畑同梅畑忍田掠本萩野岡本荒木安濃内田大田
清水河邊長岡下部田諸邑ニ限リ郡山アリ菴藝
郡界トス其東ハ海崖ヲ限リ其南ハ本郡南長野
栗原足坂五百野井面久保前田田中長谷場野田
神戸半田八幡ヲ限リ一志郡界トス水脈郡山相
列リ本郡一志ノ分界ナリ○一志郡疆域ハ其西

ハ伊賀州名張郡大和州宇多郡山嶽ヲ限リ本郡
柳原上村谷松上村垣内大原小杉城立福田山ハ
知上下太郎生猿子御嶽杉平河上諸邑西ヲ限リ
界トス其北ハ柳原中村平生蠅田東多野田森庄
田羽野戸水相川垂水米津諸邑ニ限リ郡山アリ
安濃郡界トス其東ハ海涯ヲ限リ其南ハ丹生保
上多氣柚原後山与原日河小阿坂美濃田久米ヲ
限リ郡山列リ本郡飯高郡ノ分界ナリ○飯高郡
疆域ハ其西ハ大和州吉野郡山嶽ヲ限リ界トス
其北ハ本郡多羅木月出加波富永ニ至リ大和州
宇多郡ニ界トス東ニ至リ田引赤桶上仁柿坂
内勢津伊勢寺岩内野村塚本新松ケ島諸邑ヲ限

リ一志郡界トス其東ハ海涯ヲ限リ其南ハ本郡
塩ケ瀬久谷柏野谷野枋川栗野田引作滝野々口
高山有馬野下枋川ヲ限リ郡山列リ其東ニ至リ
虻野粥見横野深野大石小片野下出江丹生歟形
下茅原田廣瀬諸邑ハ河俣川ヲ限リ多氣郡界ト
ス是ヨリ東ニ至リ山室下村上川東岸江高町屋
郡山水脉等ヲ限リ本郡飯野ノ分界ナリ○飯野
郡疆域ハ其西ハ多氣郡ニ接ノ本郡御麻生園ヲ
限リ其東ニ至リ庄村阿波曾射和中万其北ニ郡
山アリ其南ハ大河ヲ限リ飯高多氣二郡ノ分界
トス其北ハ上蛸路山添山下立利朝田宮田西黒
部ヲ限リ飯高郡ノ界トス本郡飯高ノ分界ナリ

其東ハ海厓ヲ限リ其南ハ法田伊勢場稲木高木
中河原多氣川ヲ限リ保津魚見久保松名瀬ヲ界
トス多氣本郡ノ分界ナリ○多氣郡疆域ハ其西
ハ大和州吉野郡山嶽ヲ限リ大杉谷ヨリ西ナ界
トス其北ハ本郡久豆岩井滝屋神滝御棟木明豆
栗谷天馬瀬江馬小切畠上下真手ニ至リ郡山列
リ向粥見相津波多瀬片野古江津留上下牧河俣
川ヲ限リ飯高郡ニ界トス井内林三足田四足田
相可荒蒔朝長兄国弟国河田上村平尾金剛坂坂
本中海佐田ニ至リ多氣川ヲ限リ腹太太垣外牛
草乙部東黒部ヲ限リ飯野郡界トス其東ハ海厓
ヲ限リ其南ハ本郡大杉谷檜原紀伊州牟婁郡山

嶽ニ接ノ界トス東ニ至リ大井南村唐櫃熊内茂
原平野菌村清泉赤滝上下楠神瀬枋原柳原千代
東西相鹿瀬ニ至リ三瀬川ヲ限リ田中笠木東池
上池村有尔中村藁村下有尔平尾中大淀ヲ限リ
度會郡本郡ノ分界ナリ○度會郡疆域ハ其西紀
伊州牟婁郡山嶽ヲ限リ本郡大内山米谷梅谷新
素竈ノ西ヲ界トス其北ハ間弓崎村柏村南北阿
曾野尻郡山列リ多氣郡ノ界トス東ニ至リ古里
神原打見野流野原黒坂田口麻加江坂井諸邑三
瀬川ヲ限リ東野中牧野上田邊吉祥寺世古井倉
郡山列リ柏村東大淀ヲ限リ多氣本郡ノ分界ナ
リ其東ハ海厓ヲ限リ其南ハ紀伊州牟婁郡界新

栞竈ヨリ東ニ至リ諸邑海厓ヲ限リ樽山山原ニ
至リ志摩州山嶽ヲ界トス

○本州ノ国郡界ノ定置スル処ハ西北ノ極ハ各

山嶺ヲ列リテ他州ノ分界トス美濃近江伊賀大

倭ニ接スルハ然リ南極ハ南海ニ限リテ紀伊州

牟婁郡ニ接ス東極ハ各東海ニ限リ其東南ノ隅

ニ至リ稍ク志摩州ニ接スルナリ其郡ハ○栞名

郡東西短少ニノ南北長濶ナリ国ノ東北隅ニア

リ○負辨郡ハ東西南北共ニ相等ニ○朝明三重

二郡ハ東西長濶ニシテ南北短少ナリ○鈴鹿郡

ハ東西共ニ南北ニ同ニ○河曲郡ハ東西短小ニ

ノ南北長濶ナリ○菴藝郡ハ東西長濶ニノ南北

短小ナリ○安濃郡相同ニ○一志郡相同ニ稍ク

南北モ安濃ヨリ長濶ナリ○飯高郡相同ニ西ハ

南北稍ク長濶ニノ東ニ至リ南北稍短小ナリ○

飯野郡東西長濶ニノ南北短小ナリ○多氣郡ハ

東西長濶ニノ南北短小ナリ○度會郡相同ニ然

レ本州郡ニ於テ度會一志ハ最大ナリ多氣並之

安濃是ニ並リ其餘鈴鹿飯高三重朝明負辨大畧

相同ニ菴藝飯野河曲至小ナリ其村邑此ニ相準

メ多少其濶小ニ從ヘリ然レ前ニ載ス古事記成

務朝ニ定賜国国之堺及大縣小縣之縣主也ト云

時ハ其他州ト接スルノ分界因造テ定又郡縣ノ

大小ニ随テ縣主ヲ置ル始ニノ此縣主ヲ置ルハ

郡ヲ分ツ処ニノ此朝ヨリ国郡ハ定置ルト憶フ
ヘシ日本書紀天武朝伊勢王其餘臣等巡察ノ諸
国ノ境界ヲ限分ス是年分限ニ堪スト載ル時ハ
成務朝ニ置ル処ヲ再ヒ潤飾ノ其国郡ノ分界ヲ
定置ルト謂ヘシ是年分限ニ堪スト云ハ白鳳十
二年ニ限ラス後ニ至リ分置ノ例多シ正史ニ載
ラル如シ大同本記曰難波長柄豊前宮德孝御宇
飯野多氣度會惣一郡也以乙酉年始置度相郡ト
云時ハ本州河曲負辨飯野等モ然ナルハ負辨
ハ桑名ヨリ分置シ河曲ハ鈴鹿ヨリ分置飯野ハ
度會多氣ヨリ別ツ処ニ似リ其餘ハ典故ナシト
云ヘ凡名義ニ拠リ殊ニ其郡ノ狭小ナルヲ以テ

臆断セリ○本州ノ郡置処ハ桑名ヲ首トス其謂
ハ天智帝朝既ニ桑名ハ縣ニノ郡家ノ名アリ桑
名首ノ領ス処猶天武天皇潜幸ノ地ニノ曰古ノ
遺蹤ナリ其餘正史ニ往々見エタリ是ヨリ次第
メ度會郡ニ至リ十三管ヲ列置スル処ナルヘシ
度會ハ垂仁紀ニ所載ニノ曰遠ト云ヘ凡其郡名
ハナシ然凡桑名ニ伯仲スヘシ縣ハ郡家ニノ郡
司ノ所居ナリ今諸郡ニ其地ハ詳ニシ難シ○桑
名郡ハ今ノ桑名即縣ニノ郡家ノ地ナリ○負辨
郡ハ縣主猪名部善繩ノ蹤長尾村ニアリ是郡家
ナルヘシ○朝明郡ハ神鳳抄郡司職曰十所東鑑
曰穗積庄即廣永村ノ遺蹤アリ是郡家ナルヘシ

○鈴鹿郡ハ和名抄所載英多郡即縣ノ轉ニノ同郷ナリ及縣明神延喜式縣主神社河崎村ニアリ郡家ノ旧址歴然ナリ国府ノ所在ニノ国造縣主ノ所居ハ今古分明ナリ河曲ハ其地未詳是鈴鹿郡ノ分置スル処ニノ疑クハ兼行ノ地トス○安濃郡ハ神鳳抄所載安西郡ノ條ニ郡司職田六反又郡司職田廿二町ト所記ハ他郡ニ比スルニ其町莫太ナリ然ル時ハ隸屬ノ地アルハ明ナリ前ノ菴藝兼職トスル一堪タリ即和名抄縣縣郷ニメ今片田一訛リ縣縣片田音訓相近ニ是郡家ノ地明ナリ○一志郡ハ未詳然レハ源国永家集ニ拠テ稍ク所考アリ同郡片野ニ其遺蹤アリ前ニ

云縣々片田ニ轉スルニ働テ縣野ノ訛ナルヘシ臆断一似リトイヘハ猶尋索メ知ヘシ○飯高郡ハ神鳳抄南英太御厨南英太神田式縣御園等本郡ニ載タリ莫太旧名ニメ今阿形一轉訛ス是鈴鹿郡英多郷ニ縣ノ地存スルニ拠リ今俗阿形ト称スルニ至リ証ヘカラス郡家ノ処ナリ○飯野郡ハ是小郡ニメ飯高ノ隸屬スル処ニメ其地ナシト謂ヘシ今詳ニスルニ考索ナシ○多氣郡ハ未詳古事紀曙立王者伊勢之佐那造之祖及延喜式佐那神社等此地ニ名譽スル処ニシテ其造ハ即縣上ノ旧名ニメ其造ノ祖神ヲ奉祀スル処前ノ鈴鹿縣明神ニ例スル時ハ佐那谷ノ内村邑ニ

縣ノ地存スヘシ猶索同ノ知ヘキナリ○度會郡
ハ所考ナシ各群縣ノ名義考證ハ本條其部ニ詳
ニセリ併摺ヘシ

五鈴遺響首之卷上終

五鈴遺響首之卷中

風土總論

伊勢国地形分野水土寒温ヲ詳ニスルニ其国ハ
東南海隅ノ一州ニメ委蛇トシテ盤旋ス其面ハ
東南ノ地ニメ蒼海ニ臨テ卑低ナリ其背ハ西北
ノ地ニメ山嶽ヲ帶テ昂高ナリ北西ハ美濃近江
伊賀大倭四州ニ連接ノ山行ノ至ルヘシ南東ハ
紀伊志摩三河尾張ニ連聯シテ山行及舟行ノ至
ルヘシ桑名郡ハ尾濃二州ニ接シ負弁朝明三重
三郡ハ其西ニ至リ山嶽ニ倚リ其東ハ海厓ニ臨
ム河曲菴藝飯野三郡ハ尾張州ノ地ニ對メ東海

厓ニ臨メリ其西ハ他郡ニ接ノ陸續セリ鈴鹿郡
ハ其西ハ山嶽ニ倚テ其東ハ河曲郡ニ接ス多氣
飯高二郡ハ其西山嶽ニ倚テ其東ハ東海瀕ニ臨
ム度會郡ハ其西山嶽ニ倚テ東北ハ海涯ニ至リ
三河州ノ地ニ對シ東南ハ志紀二州ニ跋扈ノ地
相連レリ或海厓ヲ限リ舟行ノ至ルヘシ此郡ニ
至テ地勢殆盡タリ○惣国ハ桑名貞辨朝明三重
鈴鹿河曲菴藝安濃ニ至リ縱横方程短小ナリ一
志飯高飯野多氣度會ニ至リ縱横方程廣濶ナリ
惣国ハ整方程ハ短小ニノ横方程ハ濶長ナリ
伊勢国風土記曰国大略東西南北二百十有八里
云云今詳ニスルニ東西南北相等ニ非ス其縱ハ

東北隅桑名郡長島城府ヨリ近江州分界負弁郡
丹生河山ニ至リ直程今道五里是東西ノ里程ナ
リ菴藝郡白子ヨリ近江分界鈴鹿郡鈴鹿嶺ニ至
リ直程六里十八町中央ハ安濃郡安濃津阿漕
塚ヨリ伊賀川分界同郡長野嶺ニ至リ直程五里
六町多氣郡白石濱ヨリ大倭州分界同郡高見岳
ニ至リ直程十六里十八町此郡ニノ地勢東西ニ
濶廣ナリ東南隅度會郡志广州分界山原村ヨリ
大倭介界大臺嶺ニ至リ直程十三里六丁是各東
西ノ訂量ノ里程ナリ其横ハ美濃州分界負弁郡
古田山ヨリ度會郡田曾浦ニ至リ直程十九里廿
四丁或尾張州分界桑名郡金廻村ヨリ紀伊分界

棚橋竈ニ至リ直程二十四里十二丁各南北ノ訂
量ナリ○東街道ト称スルハ和漢三才圖會曰東
海道從伊勢到近江尾張宮七里船渡信州木曾川
流如洪水或暴風烈時巡佐夜可行陸路也伊勢桑
名城下三里八丁有町屋川土橋長九十四丈朝明
里有橋長三十三丈有初川橋長三十八丈餘有未
川橋長二十一丈四日市二里半八丁於此出山田
追分有采女橋長三十三丈石薬師村二十三丁庄
野一里三十二丁有泉川橋長四十五丈餘自海禪
寺村左方有出白子道河合村有橋龜山城下一里
半關一里廿八丁有追分南叅宮道也坂下二里半
是伊勢近江堺也從四日市出山田道四日市二里

半神戸一里半白子一里半上野二里津從此山田
道見于左自關到山田道關一里棕本二里有豊国
野窪田一里半有一身田部田村津安濃津也雲出二里
有月本村從此出伊賀名曾越是京師ヨリ東都ニ
至ル驛路ニメ其餘四日市ヨリ山田ニ到ルハ關
東ヨリノ詣路ナリ又關驛ヨリ山田ニ到ルハ關
西ヨリノ詣路ニメ因俗所称ノ五十丁ヲ一里ニ
充テ伊勢道ト云処ハ桑名ヨリ坂下驛ニ至ル東
街道ハ各三十六丁ヲ一里程トス其四日市驛ヨ
リ山田及關驛ヨリ山田ニ到ル等ノ馭路ハ五十
丁程ニメ是官道ニ非ス所謂伊勢道ト称ス私道
ナリト知ヘシ云○總国ノ周圍一百廿六里十

八丁是今道三十六丁一里トス訂量ニノ直程ス
ル處村堡道徑ヲ經テ測ルニ非ノ今ノ歴行スル
路ニ異テリ其柶概ヲ奉ル處即正保二年本州惣
画圖ヲ校正スルノ時 台命ヲ奉ノ里程ヲ疊積
ノ測ル處ナリ其山海ヲ詳ニスルニ北郡負辨朝
明三重三郡ハ近江美濃二州ニ接ノ峻嶺多シ稜
名郡ハ美濃ニ接スル地ハ嵩嶽アリ尾張ニ接ス
ルハ河海ニノ高嶺ナシ鈴鹿一志安濃飯高四郡
ハ近江伊賀大倭三州ニ接ノ嵩嶽多シ然レ氏鈴
鹿郡ヨリ以南ハ北郡ニ異ニノ山勢稍ク峻シカ
ラズ多氣度會二郡ハ其西ニノ大倭紀伊ニ接ノ
峻嶺多シ其東南ニ至リ志广州ニ接スルハ山勢

稍ク平坦ナリ河曲菴藝飯野三郡ハ其本ニ分置
スル處ニノ陸續ノ山嶺甚少シ故ニ峻キヲ得ス
北郡負辨朝明三重鈴鹿ニ至リ曠野多シ是村邑
少ノ其民居南郡ニ比スレハ耕地ニ遼遠ナリ故
ニ曠荒ノ地多ニ至ルヘシ稜名及河曲菴藝等ハ
海東ノ瀕ニ多居ノ平坦ナリ故漁獵及耕耘ノ地
多シ中郡安濃一志ハ曠野ナシ稍ク村邑多シ民
居繁滋ノ漁農樵商相等シ故ニ耕地多シ南郡飯
高飯野多氣度會ハ漁農樵賈相同シ故ニ耕地亦
多シ曠野ハ度會郡ニ稍クアリ海瀕ハ北郡稜名
朝明三重河曲菴藝安濃ニ至リ漁民及通船海賈
多シ各東関及尾三遠志ノ隣国ニ交易ス又農民

其三分二ニ処ス、ニ中郡一志飯高飯野ニ至リ
相同ニ南郡多氣度會相同ニ農民亦多ニ海面ハ
桑名朝明三重河曲菴藝安濃一志飯高飯野多氣
ニ至リ其海東潮水ノ至ルハ各尾張三河ノ二州
本州ニ接スルノ中間ニアリ所謂瀬戸ナリ尾張
ニ至ル狭濶ハ其地ニ拠テ異ナリトイヘ凡大槩
舟行六七里程ナリ故ニ潮水ハ東洋ヨリ志广三
河ノ中間ヲ經テ此諸郡ノ海瀕ニ至ル処ニノ海
味稍ク淡鹹ニ至ルヘニ猶桑名郡桑名ニ至ル三
州渥美郡伊良、震島ト志广州荅志郡神島ノ中間
ヨリ東大海ノ潮水ヲ分溢スル処ニノ其舟行二
十一里ナリ菴藝郡白子三重郡四日市大畧相同

ニ其陸地ハ異ナリ舟行ハ相等ニ又志州神島ヨ
リ安濃郡安濃津ニ至リ舟行十五里又飯高郡松
寄浦ニ至ル十里度會郡大湊ニ至ル七里ナリ其
餘准知スヘニ○海潮ノ消長盈虚ハ其地ノ里程
ニ從テ時刻ノ遲速異ナリ其東洋ヨリ分溢スル
処ノ適キ地ハ速ニノ遼遠ハ遲ク至ル故ニ世俗
所知ノ潮候ニ殊異トス大洋ニ其潮ノ消長スル
世説ニ大畧同ニ大洋ト内海ハ五十里ヲ相遠キ
時ハ一時六刻ヲ差フ然ル時ハ桑名ニ至リ其大
洋ヨリ二十一里程ナリ二十五里ニ至テ半時三
刻ヲ差ヘル時ハ世説ノ朔日ハ満潮ハ六時四刻
消潮ハ九時二刻ト謂フニ合ハス其半時強ヲ二

十里ニ差フ時ハ滿長スルハ五時ノ初二刻ニア
フ其消涸スルモ八時二三刻ニ至ル猶消長凡ニ
相同ト云ヘ凡消涸スルハ至テ大洋ニ異ニ遅
ニ是大畧ニノ其地ニ至リ試知ルノニ敢テ量刻
ノ器ヲ不得用ノ晷ヲ測テ知ルモノナリ其餘三
重一志飯高多氣ノ近海ニ至リ其里程ニ準ノ差
異アルヘシ尽ク知難シ孰レ大洋ニ潮脉満ル時
ハ江海ハ都テ不至大洋潮脉涸テ江海ニ滿溢ス
ルハ常ナリ其大洋ト云ハ勢志二州海中島岐ノ
地ヲ指スナリ洋中ノ義ニ非ス○星度ニ差異ア
リ北郡負辨郡山口村ニノ窺フニ北極出地ハ三
十五度半強南郡度會郡田曾浦ニ至リ窺フニ三

十六度強其度半ヲ差ヘリ北郡ハ大畧皇都ニ同
ニ其山海ニ應ノ高低及里程ニ擬テ稍ク差ヘリ
○晷ヲ測ルニ夏至一尺六寸二分冬至一丈三尺
一寸其餘昼夜長短未考得ス○風土寒温ヲ論ス
ルニ一志郡雲出川ヲ限リ南北ヲ分裁ノ稍異也
古昔北郡南郡ヲ分置ノ称實ニ合ヘリ素名負弁
朝明三重河曲菴藝鈴鹿ノ八郡ハ風土相似テ寒
温相等ニ寒ハ速ニ暑ハ稍遲ニ然レ素名負辨朝
明三重ノ四郡ハ霜雪多ノ寒嚴ナリ最素名海南
ノ地ハ冬月稍温ナルニ似リ其餘ノ三郡ハ寒甚
ニ河曲鈴鹿菴藝安濃ハ相等ニ然レ菴藝河曲海
南ノ地ハ稍温ナリ暑モ相從ヘリ南郡一志飯高

多氣飯野度會五郡ハ風土相似テ寒温稍同シ然
度會海東南ノ地ハ至テ温ニノ霜雪希ナリ其
餘四郡ハ暑速ニ寒遅ニ大畧相似リトス北郡山
嶽險巖ニ倚ル処ハ寒甚ク海瀕低坦ニ居スルハ
稍温ナリ西北ニ山嶽ヲ帶東南ニ海江ニ拠ルカ
故ニ温和ナリトスヘシ南郡ハ山嶽坦平ニノ東
南江海ニ臨ムカ故ニ至テ温ニテ陰温多シ常ニ
東南ノ風多ノ陰雨屢下リ水厄多シ北郡ハ常ニ
西朔ノ風多ノ霜雪頻ニ厚ク燥寒ニノ水厄希ナ
リ○其土ハ菜名朝明三重河曲菴藝安濃一志七
郡ハ海東ノ地ニ至リ白砂相交リ壤ナリ其西北
ニ至リ黄白壤及山嶽ニ至リ赫壤ナルアリ鈴鹿

一郡ハ黄白壤填相交レリ飯高飯野多氣度會四
郡ハ其海東ニ至リ白砂相交リ壤ナリ西北山嶽
ニ至リ壤赫壤多シ中土ハ黄填ニノ或ハ黑填
モ卑湿ノ地ハ相交レリ地形ノ高低ハ凡テ十
三管凡ニ大畧東南ヨリ二里ニ至リ低シ西北ニ
至テ地高ニノ海瀕ハ愈低シト知ハシ○其水ハ
北郡清冷ニノ味甘淡ナリ南郡ハ重濁ニノ味不
佳ナリ○其音律ハ水ノ清濁ニ應ス北郡負弁朝
明三重鈴鹿四郡ハ西北ニ居ノ近江国音ニ似テ
清虚ナリ其東南ニ居スルハ国音ナリ菜名一郡
ハ尾濃二州ニ接スルカ故ニ其二州ノ音ニ近シ
河曲菴藝ハ国音ニノ稍清虚ナリ一志安濃二郡

ハ近江伊賀二州ニ接ノ江賀ノ二音ニ似リ東南
ハ河曲菴藝ニ類ノ国音ナリ其餘風俗動作顛沛
各南郡ニ異ナリ南郡ハ飯高多氣二郡西北ニ居
スルハ大和州音ニ甚近シ東南ハ国音ナリ稍ク
北郡ニ比スルニ重濁ナリ飯野一郡国音ナリ度
會一郡ハ西北ニ居スルハ大和国音似リ東南ニ
居スルハ紀伊志ノ二州ニ接ス故ニ其二州音ニ
近シ其餘国音ニ至テ重濁ナリ○其風俗顛沛
北郡ニ異ニノ北郡ハ撲愚ニノ甚吝慚ナリ南郡
ハ放肆ニノ甚驕奢ナリ其情質ハ人国記曰當風
ノ風俗南北各別ナリ南伊勢ノ人情ハ土ニテ作
リタル器ニ漆ヲ塗リテ其上ニ金銀ノ彩リヲシ

タル如シ誠ニ言葉ノ体ハシホラシク山城ノ人
ニ同シト云ヘ氏心底ハ甚欲深ク親ハ子ヲ誑リ
子ハ親ヲ欺ク万事ニツキテ穢キ意地ナリ士モ
意入穢ク下人ヲ情ナク使ヒ下人モ又主ヲ當座
ノ渡世ニ憑ミスルト思ヘリ互ニ頼母シケナキ
風ナリ北伊勢ハ人ノ意地ヨキ処モ多シ是ハ譬
ハ下地ヲ雜木ニテ造リ上ヲ漆ニテ飾ルカ如シ
然レハ下地ノ土ニテ造ルヨリハ遙ニ勝リタレ
氏元采雜木ノ処アルナリ約ヲ違ヌレハ赤面ヲ
スルホトノ事ハアルナリ婦人ノ形杜^状ハ上方ニ
テ京當国ト第一ナリトソ云云是北條時頼最明
寺入道ノ所撰ト云ヘ氏其偽タルハ世ニ普ク知

ル処ニノ其人情ヲ尽シテ記スルハ實ニ然リト
謂ヘシ故ニ忠烈孝廉ノ士ヲ多ク出スルキハ其
人情ノ虚薄ナルニ拠レリ猶婦女ノ形容ハ今時
娼妓ニ侷テ卑俗ナリ京師ニ比スヘキニ非ス其
南北陰陽ニ拠テ地勢風土人情ノ所然ハ自然ノ
造化ニノ一州ニ於テ然リ天壤間ノ浩冥タル測
知ヘカラス然レ其一州一邑ニ於テ公然タル汚
名ノ存スルハ萬世ノ遺憾トスヘシ愚南郡ニ産
ノ其一州郡縣ヲ改少シ風土人情其事實ヲ述ル
ニ一毫モ私ニセズ經濟ノ微志ヲ存スト云ヘ凡
其任ニ非ス冀クハ後來ノ君子此ニ鑒テ民ヲ利
セハ自後ノ幸慶此ニ罄ニノミ

府治總論

伊勢国造ノ始原ハ旧事紀曰伊勢国造檀原朝武
以天降天牟久怒命孫天日鷲命勅定賜国造云云
伊勢国風土記曰伊勢国者天御中主尊十二世孫
天日别命之所平治中畧天日别命壞築此国復命
天皇天皇大歡詔曰因宜取国神之名號伊勢為天
日别之村地云云旧事紀度會延佳鰲頭曰天牟
久怒牟羅久怒之脱誤日鷲日别之訛謬乎度會
系圖曰天日别命天波與命子天牟羅雲命孫也
右可併按但日别命或称日鷲命然他書未見作日
鷲者云云然リ即天日别命後世此ニ侷テ天日
鷲命ト别名トスルニ至レリ其国造ノ名ハ既ニ

旧事記所載ニ天日別命ヲ權輿トス国神伊勢
津彦名ヲ以テ国號ニ名クト云ハ不取前ニ辨ス
ル如シ大姓氏録曰伊勢朝臣天底立命孫天日別
命後也云云此ニ拠テ天日別命ヲ国造ノ始トス
ルニ足レリ續日本記曰文武天皇二年秋七月
癸未以直廣肆高橋朝臣島麻呂為伊勢守又曰
元正天皇養老三年五月甲子令伊勢国司從五位
上門部王管伊勢志广二国云云此ニ拠テ国司ノ
名詳ニ正史ニ所載ニ拠リ後国史ニ所出猶詳ナ
リ後號鈴鹿郡国府條ニ悉ク標出シテ此ニ畧セ
リ其澆季ニ至リ国司ノ名ヲ遺失セサルニ至レ
リ百鍊抄卷四曰後冷泉天皇康平三年六月十

一日條曰諸卿定申伊勢守義孝燒亡大神宮御厨
并祭主永捕目代大中臣賴經殺害大神宮託宣者
守時事去五月廿一日於使廳勘問件賴經三箇年
被召置射様而四年東北院供養會赦猶暫不被免
而遂恩免事云云其伊勢守ノ名此ニ挙ルノミ
是ヨリ後ニ至リ平氏繁昌ニ及テ其先ノ產地ナ
ルヲ以テ摠裁ノ領国トシ或ハ在京ノ帝座ニ咫
尺スルニ至リ守護代及其臣ニ分領セシムル等
ノ澆政ニ及ヘリ東鑑卷一治養五年八月十六
日條曰中宮亮通盛朝臣為追討本曾冠者又趣北
陸道伊勢守清綱上総介忠清館太郎貞保祭向東
国為襄武衛也云云百鍊抄卷廿九安徳天皇養

和元年正月八日條近日東海西海北陸以下至五畿内所々有謀叛之聞今日以前右大将宗盛卿可為五畿内并伊賀伊勢近江丹波等国惣管之由被宣下天平之例云云是等ニ拠テ本州ノ惣裁モ平氏ニ補ヒラルニ拠リ平氏追討ノ後モ此幣政ヲ相繼テ後鳥羽天皇文治元年十月廿八日鎌倉前右大将頼朝請ニ依リ日本總追補守護使ヲ許免ノ院宣ヲ賜ハルヨリ国司ノ號ハ殆廢セリ東鑑第十一建久二年正月十七日條曰民部丞盛時武藤二郎資頼等奉仰遣使者於伊勢志广兩國又出納和泉掾国守相副云云是平家没官地未被補地頭所々相交之由依聞食及為巡檢之也是

ヨリ前平氏西海ニ沈滅ノ後没官領ハ悉ク鎌倉ノ家人ニ所給ニノ東鑑ニ所載詳ナリ猶其餘ノ地頭ノナキ処ハ志勢二州ヲ巡察ノ由ナリ如是ノ举ニ拠テ總裁ノ守護職ハ不置ト云ヘ氏今ノ府治ノ如ク其郡縣ニ各地頭領主ト称スルハ是ヨリ始テ置ル処ナリ鎌倉右大将家三代治世十四年頼經將軍ヨリ守邦親王ニ至リ六代北條氏執權九代一百十年總計百五十八年ノ間此举ニ及ヘリ後醍醐天皇統国ノ後南朝延元三年北朝曆應元年閏七月北畠中納言顯家陸奥州国司鎮守府將軍ニ任シ同役四位上源顯能ヲ本州ノ国司ニ再任セラル吉野日記曰閏七月顯信從三位任陸奥

守同顯能叙從四位上任伊勢守 是伊勢国司始
藤原有資任伊豫守顯信後ニ顯家ニ轉セリ其箕
裘ヲ繼テ九代左中將信意ニ至リ曆應元年ヨリ
天正四年ニ至リ二百四十年ニ暨テ湮滅ス是国
司號ノ中興ナリ然レモ在職ノ間應永中足利將
軍仁木左京大夫源義長ニ命ノ守護職ヲ補スル
是京都室町家ニ叛スルニ扱レリ猶本州總国及
志广大和伊賀二州ヲ兼行スト云ヘモ各其州ニ
領宰スル傑士アリ悉ク命ニ應セス本州一志ヨ
リ以南飯高飯野多氣度會五郡ヲ宰ノ雲出川ヲ
限リ南方ヲ屬領セリ其餘北郡ハ安濃郡長野工
藤次郎左衛門尉親光庵藝郡雲林院出羽守鈴鹿

郡關安藝守平盛信三重郡千草常陸介忠房此曰
將ニ屬スル諸家業名負辨朝明三重河曲鈴鹿菴
藝安濃八郡ニ居ノ其地ヲ掌ニ至レリ天正四年
十一月廿五日北畠家織田信長將軍ニ滅セラル
ニ至リ其子織田右中將信雄北畠ノ嗣トシ本州
ヲ領宰ノ度會郡田丸城ニ居南五郡及北八郡悉
ク其麾下ニ雌伏ス天正八年田丸城祝融ノ患ニ
罹テ一志郡松ヶ島城ヲ築テ同九年八月迁住ス
北畠本所ト稱ス同十年右中將信雄尾張州清須
城ニ移居ス其臣津河玄蕃頭ニ居セシム本州ノ
宰知故ノ如シ同十二年三月其臣瀧川下總守ニ
賜フ豊臣秀吉公命ノ蒲生飛騨守氏卿ニ給ス同

十六年蒲生氏郷飯高郡松坂四五百森城ヲ造テ
住ス南郡ノ令田ニ從テ北郡ハ桑名郡長島城
ハ滝川左近將監一益及天正十一年天野周防守
等ニ給ス天正十年河曲郡神戸城織田三七信
孝四国官領ニ補テ後小島兵部少輔ニ賜テ同十
一年豊臣秀吉公林與五郎ニ命メ居セシム其時
鈴鹿郡峯城岡本下野守同郡龜山城ハ關安藝守
盛信同国府城ハ国府次郎四郎同鹿伏兔城鹿伏
兔左京亮同赤堀城赤堀越前守三重郡千草城千
草三郎左衛門尉同楠城楠十郎菴藝郡稻生城稻
生雅樂助各尾州織田信雄ニ屬メ天正十二年美
濃州加賀井城ニ戦死メ其継テ絶セリ關安藝守

及岡本下野守ハ豊臣家ニ屬メ稍ク其嗣關長門
守龜山城ヲ賜テ蒲生氏郷ニ屬セシム菴藝郡
別府城ハ天正十二年豊臣家分部左京亮ニ命メ
居シム安濃郡安濃津城ハ永祿十二年織田上
野介信包居ス天正十二年豊臣家ニ屬ス後富田
信濃守知信ニ賜テ南郡度會郡田丸城稻葉蔵
人大夫越智道直飯高郡松坂城ハ慶長五年石
田織部正ニ給メ居セシム其諸城ノ遺跡府治ノ
沿革ハ今其郡邑ノ各條ニ詳ニ録セリ嚮ニ治
養和ノ間平氏国柄ヲ執レルヨリ其黨伊勢守
ニ任シ及文治間鎌倉幕府ニ至リ平族其本貫ノ
地ニ拠居メ干戈ヲ動スニ暨シ其守護使ヲ差シ

或ハ田領没官領ノ地頭ヲ置ニ從ヒ自国司惣裁
ノ田蹤ハ遺失シ其地ヲ割分テ放ニ騷擾ノ乱奪
ヲ務トス建武延元間国司北畠家管領スルニ南
朝ノ聖運殆尽ニ及テ其威嚴衰頽ノ足利將軍ノ
令ヲ奉スルニ至リ永祿間織田信長尾州ヨリ蠶
食ノ本州ヲ掠奪スルニ北郡ヲ諸傑ヲ尽ク残戮
シ及南郡ヲ征伐ノ詐リテ和親ヲ結其国司氏族
ヲ誅害シ諸郡ヲ統宰スルニ至リ田臣等雌伏ノ
隸屬スルニ及テ其挙ハ戦争ニ拠リ動乱更ニ止
時ナシ稍一統スルニ其終ヲ全セス豊臣家繼テ
其田ヲ追慕ノ神域ノ崇敬居民ノ撫育悉ク前蹤
ニ因レリ然レモ其永世ヲ得サルニ拠リ當今ニ

至リ二百餘歳昇平ノ徳澤ヲ蒙リ国民鼓腹ノ盛
時ニ遇万歳ノ頌ヲ歌ヒ所謂浪音不聞国風音不
聞国弓矢鞞音不聞国打摩伎志賣国敷浪七保国
之吉国ト實ニ崇稱スルニ足レリト謂ヘシ

神封總論

上世帝王ヨリ神領ヲ寄玉ノ事豫ノ左ニ著ス
日本崇神紀七年十一月丁卯便別祭八十万群神
仍定天社国社及神地神戸ト云云 日本神功記
曰更祭祀神祇躬欲西征爰定神田佃之ト云云
御鎮座本記曰亦更定神地神戸云云 按ニ神戸
ヲ神戸田シノ地シノ云ヘリ 祝詞式曰御刀代田ト書
リ 政事要畧曰二百五十步為五十代トアリ

色葉集曰田ハ五十代ヲ一段トス十代ハソシロ
廿代ハハシロ三十代ハミソシロ四十代ハヨソ
シロ五十代ハイソシロナリ云云 大同本記曰
難波長柄豊前宮孝德御宇飯野多氣度會摠一郡
也以己酉年始置度相郡ト云云 類聚三代格曰
弘仁年九月廿三日太政官符云應令神戸百姓修
理神社事石奉勅諸国神戸例多課丁供神之外不
趣公役宜役其身修理神社随破且修莫致大損国
司每年巡檢修造若不遵改更致緩急者随状科被
ト云云 神宮雜彙記曰清和天皇貞觀四年十一
月九日格云神戸百姓不可割取凡大神宮事異於
諸社依延曆廿年四月十四日格永無改減若有乖

忤科違勅罪也云云上世伊勢国十三郡ノ内ニ大
神宮封戸ノ有スル地ヲ神部ト称シ来ル事尚ニ
左ニ著ス
類聚三代格曰弘仁十二年大政官符云承前之例
大神宮司檢納伊勢国多氣度會西郡神田祖及七
所神戸田等租支用祭禮從來尚矣 按ニ是弘仁
ノ頃マテ多氣度會ノ二郡ノニ神郡ナリ 雜例
集曰飯野郡仁和五年三月十三日勅一代之間奉
寄ト云云 寛平九年九月十一日符曰永奉寄此
後多氣度會飯野三郡ト云云 延喜式曰三箇之
神郡ト称ノ悉ク大神宮領ニ属スト云云 按ニ
コレヲ道後ノ三郡ト云ハリ又源平盛衰記曰神

三郡ニ打入テトアルハ此夏ナリ東鑑曰放入
使者於神三郡充課兵糧ト云是ナリ朱雀天皇
天慶四年三月廿八日負辨郡ト尾張三河遠江ノ
封戸三千戸ヲ寄玉ヲ村上天皇御宇三重郡ヲ
寄玉ヲ圓融院御宇安濃郡東西ニ分割テ安東
郡安西郡ト称ス奉寄シ玉ヘリ
後一條院御宇朝明郡ヲ加ヘ寄玉ヲ左經記曰
寛仁元年十一月九日癸卯早旦右大将被参入令
参仰云以伊勢国朝明郡永可奉加寄大神宮依御
願也ト云云後鳥羽院飯高郡南北ニ割分ケ寄
玉ヘリト云云按ニ初ノ神三郡ニ此五郡ヲ加
ヘテ神八郡ト称ス又負辨三重朝明ノ三郡ヲ道

前ノ三郡ト称ス貞永式目抄曰伊勢国道前三
郡政所ト載ルハ負辨三重朝明是ナリ案ニ此
神郡神戸ノ祖調庸ノ品物ヲ大神宮司離宮院廳
ニ收納シ神宮ノ供進雜用ニ充行フ事ナリキ然
ルヲ兵乱ニ湮没セラレ豊臣將軍ヨリ以来多氣
度會二郡ノ内ニテ纔ニ五箇村合高三千五百回
十石此内百四十石ハ有ル大神宮領トナルノミ
所謂神戸ハ今モ河曲郡ニ其名ノ遺レルカ如
ク大神宮ノ封戸ヲ略メ云ヘリ封ハ封戸田也
凡テ神代上世ハ神田封戸御園御厨ノ四等アリ
總ノ言フ片ハ神領ナリ其神戸ニ本神戸新神戸
正戸寄戸ノ四級アリ本神戸ハ御鎮座ノ時国造

貢進セシヲ云フ新神戸ハ其後代々 帝王寄附
シ玉ヲ云 按ニ安東郡專當沙汰文曰本加御
田新加御田ト称ス是ナリ 正戸ハ固有ノ民戸
ヲ指ス寄戸ハ後ニ増進ノ民戸ナリ 案ニ神宮
雜事記曰永養六年祢宜内人等正戸寄戸所當官
物依例收納スト云フコレナリ 神戸一戸ト
云ハ續日本記天平十九年五月戊寅大政大臣奏
每一戸以正丁五六人中男一人為率ト云云 延
喜民部式曰凡封戸以正丁四丁中男一人為一戸
其田租者每一戸以卅束為限戸ト云云 令義解
曰謂戸一家為一戸也ト云云 神戸ノ年貢ハ神
祇令曰凡神戸調庸及田租者並充造神宮及供神

調度皆国司檢校申送所司ト云云 職負令集解
曰讚云是知神戸者輸調庸及租而充造神宮并供
神料者ト云云 按ニ租ハ米年貢調ハ絹布綿糸
ノ類其御産ヲ云庸ハ封戸田ニ就テ人夫ヲ出ス
正丁ハ一年ニ十日役ス其役ニ出ナルハ其代リ
ニ布ヲ出ス一日分二尺六寸十日分二丈六尺庸
ノカハリニ出スユヘニ庸布ト云 六所ノ神戸
ト云ハ飯高郡卅六戸一志郡廿八戸安濃郡卅五
戸鈴鹿郡十戸河曲郡卅八戸桑名郡五戸ヲ指ス
是新神戸ニノ皆大神宮式ニ出タリ 案ニ弘仁
十二年ノ官符ニ七所ト載テレタルハ飯野郡ヲ
加ヘテ然言ヘリ 宇多帝ノ朝ニ飯野郡一圓神

領ト成テ多氣會度二郡ニ合セテ神三郡ト云故
ニ延喜式ニ六所ノ神戸ト載ス 飯高安濃二郡
ハ延喜帝ノ朝ハ神戸ナレ氏園融帝後鳥羽帝ノ
朝ハ神郡トナレリ又其餘大和国十五戸伊賀国
二十戸志摩国十六戸尾張国四十戸参河国二
十戸遠江国五十戸一本ニ是本神戸ナル事必セ
リ大神式此外ニ御園御厨称スアリ 神鳳抄給
人引付曰御園御厨アリ田令曰凡給園地者随地
多少均給云云 義解曰殖粟漆者必於園地故也
云云 案ニ是原来園ハ栗漆ヲ載ル処ナリ云トイ
ヘ氏園園トツ、キテ古来田地ノ事ニ用ユ 朝
野群載曰攝津国宇宿久御園領内田畠一町一段

ト云ニ同シ 庄園トツ、ケテ庄ノ扱ハ日本崇
峻紀曰 田庄 續日本記曰庄三區ト云云 按
ニ庄ハ郡縣ノコトノ見ヘテ其恩許アリテ祖先
ヨリ所分スル領地ヲ其庄何庄ト称シ来レリ
朝野群載曰勸学院解文更割諸国所領之庄園以
充多士研精之依怙云云 空穗物語曰伊予の漆
封のものは乃沙庄の物云云 源氏談明石曰津庄ト
云御牧ト云云 平家物語曰平家知判の云云拾
得ケ園既ノ半園ト云云 類聚三代格曰延喜二
年三月十三日大政官符曰右諸院諸宮王臣家於
諸国郊内或本有田地自立庄家或新占山野收其

地利ト云云 按ニ兩神宮ニテモ御園ヲ庄氏稱
スヘシ即總ノ言フ井ハ神領ナリ 御厨ト云侍
中群要日吉野御厨ト云云 若鮎鮎解文山槐記日
粟津御厨申ノ云加新網代并備供御云云 固大
曆記日應兼補大江吹田等御厨檢校職云云 案
ニ上件天子供御ノ魚鳥蔬菜ヲ貢進スル處ヲ御
厨ト云厨ハクリヤト訓ノ膳味ヲ調和スル處ナ
リコトニ准ノ御厨ト稱スナルヘシ神宮ニテモ
神供ノ魚貝產物ヲ貢スルノ名ナルヘシ後
世ニハ租米ヲ上ル處モ准ノ稱セシナリ 上分
ト稱スハ神宮ノミノ名稱ニシテ租米ヲ指テ云
フ以下准之 大治五年相馬御厨文書日於供祭

物者毎年以田畠地利上分并土産鮭等可令備進
也ト云云 神庖司ヲ御厨ト稱ス是ハ神稅ヲ收
納ル御倉ノアル處ニ右ニ准ノ云フナリ
延喜大神宮式日御厨案主十人司掌一人鑑取一
人厨女一人ト載タルハ神庖司ノ役人ナリ此御
厨ノ稱号ハ御園御厨ノ事ニハ非ストイハ氏神
稅ヲ收ルニハ准ノ名ケタルノルヘシ 是度會
居通リニ此ニ奉ル處ハ後條本編ニ神郡神戶御
厨御園等ノ事ニハ非ストイハ氏神稅ヲ收ルニ
ハニ准ノ名ケタルナルヘシ 是度會常彰有
ニ奉ル處ハ後條本編ニ神郡神戶御厨御園等ノ
遺蹤ヲ各條ニ載スルニ拠テ其曲故ヲ知ル為ニ

載不猶神戸御厨御園ハ正史及東鑑ニ所載多ニ
度會郡大神宮篇ノ卷末ニ悉ク抄出ヒリ其神戸
御厨ノ在処ハ神鳳抄及神領目錄等ニ詳ナリ右
條ニ引扱ノ其地ヲ示スニ至レリ併誓ヘシ

五鈴遺響首之卷中終

五鈴遺響首之卷下

延喜式社總論

延喜式所載神名帳曰

天神地祇惣三千一百三十二座

社二千八百六十一处

前二百七十一座

大四百九十二座

並預祈年月次新嘗等祭之案上官
幣就中七十一坐預相嘗祭

小二千六百四十座

並預祈年案下
官幣

四百三十三座

並預祈年
國幣

二千二百七座

伊勢国二百五十三座

大十八座

就中十四座 預月次 新嘗等祭

小二百三十五座

本州ニ有スル処總計二百五十三座ナリ式ニ所

載ニ扱テ式内神社ト云テ畧ニテ式社ト俗稱ス

ルナリ其延喜式所載其社域ヲ十三郡ニ配ルニ

度會郡 五十八座

多氣郡 五十二座

飯野郡 四座

飯高郡 九座

一志郡 十三座

安濃郡 十座

菴藝郡 十三座

鈴鹿郡 十九座

河曲郡 二十座

三重郡 六座

朝明郡 二十四座

真辨郡 十座

兼名郡 十五座

都テ祭神二百五十三座ニノ社宇ハ二百三十二

処ナリ二十一座ハ併ニ祭ル処ニノ或ハ前社ト

稱ノ一処ニ別殿アルアリ式ニ前二百七十一座

ト載ル是ナリ然ルニ今其神社ト指ノ諸書ニ所

載ニ其地異同アリ旧時ハ不論其社域及神名ヲ

考索スルニ慶安中寛熙近神名帳考正万治中度

會延經神名帳考證明和申度會正身神名帳再考

證等ノ撰アリ熙近ハ神名ヲ其社ニ附属ニ其社

宇ノ在処ヲ稍ク注スト云ヘ凡未詳ト稱ス多シ

故ニ延經其闕ヲ補ヒ神名ヲ注解ニ其社域存在

スル地ヲ校正ス然レ凡久廢ノ地附會牽強ニ沙

ル談多端ナリトノ度會正身再注スルニ及テ今
猶其餘ヲ論セス其直ヲ得タリトス是ニ拠テ前
誌所載今古ノ異同アルニ拠レリ按スルニ勢陽
雜記式内神社ヲ往々載ス然レト摠二百五十三
座ヲ悉ク記セス是漏脱ナリ既ニ明曆中所著ニ
シテ神名帳考正ニ拠ル処ナリ故ニ今詳ニスル
ニ誤多シ猶此ニ劬テ古屋草紙及背書国誌神風
徴古録等照近所言ニ雷同スルハ勢陽雜記ト伯
仲ノ其誤若干ナリ又勢陽俚談相同シ各神名帳
考正ニ徴スルニ拠レリト謂ヘシ其考正ヲ論ス
ルニ慶長元和間ノ鬪戰ノ際ニ近ク久廢スルハ
更ニノ其神社ヲ修營スル処モ未全ヲ得ス荒蕪

ノ地ニノ何ノ其詳ナルヲ得ル事難シ然ルニ其
地ヲ摸索セスト云ヘト此舉ニ及ヘルハ實ニ勉
タルニ足レリ此ニ拠テ考證ノ撰ニ至テ詳ナル
ニ至リ猶再考證ヲ著スルニ及テ尽セリトシテ
其後ニ至テ未是否ヲ謂ハス近曾所編ハ是ニ拠
レリ其考證再考證ノ所撰盛挙ナリト云ヘト祠
奉ノ躬ニノ一州ヲ改陟ノ其地ヲ探リ村老土俗
ノ旧傳ヲ聞事ヲ得ス紙上ノ譚ニ涉獵スルニ及
テ其真否ヲ得ル処詳ナラス是遺憾トスヘシ故
ニ正身ノ徒郷人五十嵐久貞八木應則等安永八
年二百三十二処一州ノ神社ヲ經廻ノ其社域ノ
存スル処順次ノ行程ヲ詳ニ注メ式内神社案内

記ヲ編セリ其後天明中猶詳ニ記セニ為ニ久負
再廻スルニ及テ其挙ニ例ニ鈴鹿郡山本村椿大
神社祠部山本大學周廻ノ拜廻ノ禮ヲ尽セリ寛
政中黒瀬某是ニ例ニ拜廻スルニ至レリ其履歷
スルハ五十嵐久貞ヲ權輿トス其前式社ノ撰書
モ甚詳ナルヲ尽セルハ難シ况拜廻スルノ輩絶
テ聞事ナシ然レモ前人各考證及再考證ニ拠ル
処ニノ其社域ノ在処其祭神ノ配名等附會牽強
臆断ノミ猶未詳トス大畧左ニ列ノ考索ニ便ト
ス其餘詳ニスル処ハ郡邑各條ニ載タリ神名帳
再考證素名郡多奈閑神社ハ負辨郡中上村ニ配
ス負辨郡多奈閑神社前ニ混合ス一座トスルニ

似リ朝明郡石部神社負辨郡石搏村ニ配ス同郡
鬼上神社負辨郡宇賀ニ配ス同郡大神社負辨郡
片樋村ニ配ス同郡檜田神社負辨郡島田村ニ配
ス同郡櫻神社三重郡佐倉村ニ配ス同郡長谷神
社素名郡素部村ニ配ス前ニ素名郡長谷神社ト
混合ス一座スルニ似リ河曲郡夜夫多神社鈴鹿
郡甲斐村ニ配ス同郡大鹿三宅神社鈴鹿郡国府
村ニ配ス鈴鹿郡三宅神社菴藝郡三宅村ニ配ス
安濃郡加良比神社一志郡藤方村ニ配ス多氣郡
伊佐和神社飯野郡射和村ニ配ス同郡檜田神社
飯野郡大槲田村ニ配ス同郡奈々美神社飯野郡
七見村ニ配ス同郡服部麻力方神社飯野郡大垣

内村ニ配ス同郡魚海神社飯野郡魚見村ニ配ス
同郡手庭神社飯野郡下蛸路村ニ配ス同郡加須
夜神社度會郡柏村ニ配ス同郡天香山神社飯野
郡保津村ニ配ス同郡牟禮神社飯野郡西黒部村
ニ配ス同郡大柳神社飯野郡豊原村ニ配ス是延
喜式所載ノ郡名ト今配スル処ハ差異アリ然ル
ニ何ノ拠ニ由テ今此村邑ニ建管スル処ニ標ス
ルハ審テラス或ハ其郡古今異アリト謂フ時ハ
成務天皇朝及天武朝ニ建置セラル郡縣後世ニ
至リ強テ差互スヘキニ非ス然レモ其郡縣ノ他
郡ト界スル地ハ後世混スルニ至ルモアリトス
ヘシ和名抄多氣郡宇爾郷ノ今度會多氣ノ二

郡ニ係リ惣目古図ニ飯野郡津留上中牧三邑今
多氣郡ニ係ルニ同ニ和名抄飯高郡上牧郷下牧
郷ニノ多氣郡或飯野ニ混スルハ今古ノ異ナリ
其餘猶アリ此ニ拠テ再考證ノ配スル処ノ飯野
朝明二郡ニ其差多キハ貞弁朝明ハ郡界ヲ隣ル
多氣飯野ハ前説ノ如ク混ニ易ニモ謂ヘシ然レ
モ延喜中飯野飯高多氣三郡各所有ニノ和名抄
天延中所撰モ然敢テ郡ノ混淆スヘキ非ス是後
世ニ配スルノ妄ナルニ相似リ其餘前ニ編スル
校正考證ニ拠テ其詳テラサルハ前誌ノ摸索ヲ
不得ノ妄ニ從ノニ拠レリ後賢ノ再考スルニ至
リ猶真ヲ得ハ難シ前書ニ拠テ其正ヲ不得ハ宜

ナリトス今憶ノニ曰昔兵革ニ罹リテ湮滅スル
地多シ既ニ二宮皇大神遷宮永享六年ヨリ百三
十年後永祿六年外宮正遷宮ヲ行ハル又内宮ハ
寛正三年ヨリ百二十四年ヲ經テ正遷宮ヲ行ハ
ル其間ニ假殿遷宮ハ稍ク執行スト云ヘ凡百有
餘歳ノ間懈タル其時世ヲ想像スヘシ猶此ニ拠
テ攝末社等至テハ其名蹤アリテ社地ヲ遺失ス
ル多シ故ニ寛文三年大官司精長再興ノ時ニ至
リ度會郡中ノ通近ノ地ト云ヘ凡其社域荒廢ノ
知リ難キニ拠リ苦辛ノ田典ヲ探リ旧境ヲ尋テ
稍ク再修ノ今ニ至ル處ノ如シ其二宮域ニ近キ
河原大社及河原潤神社等旧址ヲ錯リ建ルニ至

レリ然時ハ他郡式社ニ至リ二宮ニ不預處ニメ
方位遼遠ナルハ久廢ノ其半ハ旧址ヲ失フ處モ
不尠トスヘシ當今昇平ノ時ニ過シ敬神ノ盛舉
民俗ニ至テ不懈カ故ニ漸ク遺蹟ハ猶存スルニ
及ヘリ此ニ拠テ一州惣郡ニ登躋ノ其旧地ヲ探
リ及新修ノ域ヲ索テ通計一百七十一里二十六
町ヲ經歷ノ其真ヲ得テ二百三十二前前誌ノ所
載異同差誤悉ク注シテ本編村邑式内神社條ニ
詳ニ録セリ

前誌總論

伊勢国地誌ノ古昔其名ノ遺存スルハ伊勢地理

志田光、福田カ所著ノ伊勢記等ハ北畠權大綱言
材親ノ記ニ載タリ今其書傳ルナニ同准后親房
洞津考アリ然レ全本ヲ不得終一二紙ナリ其餘
古ハ不識今ニ於テ存スルヲ不見余カ管見ト謂
ヘレ明昏中安濃津藩士山中為綱勢陽雜記八卷
四方ニ布テ公然タリ其著撰スル処郡縣山海村
邑神社梵刹名勝文苑軍錄悉ク摘テ舉ル処若干
ニメ其世末文物ノ盛華ニ非ス典拠ニ相乏メ千
劬萬勞ノ編スル処今ヲ以察スヘン是後世ノ地
誌ノ推輿賞スヘキニ至レリ其後菊岡如幻勢陽
府志ヲ編ロリ其書多ク傳ハラス又勢陽要義ノ
リ其所撰ノ人ヲ不知然レモ悉ク勢陽雜記ニ拠

テ十ニメ八九ハ前文ヲ鈔スルニ至ル或ハ西伊
隨筆アリ是其名ヲ聞テ余未目撃ヒス天明中古
屋某所著古屋草紙及勢陽雜記拾遺昔書因誌神
風徵古録等世ニ盛ニ布ク是各相似テ別ニ異論
アラス彼ノ古屋某ハ北郡三重郡松本村ノ一農
老ニノ郡縣ヲ經歷シテ録スル処前誌ニ異ニ
テ徃々新奇ノ談アリ然レモ村老ノ巷説ヲ採用
テ其徵ヲ不得トモ多シ又鈴鹿郡ニ萱生紀由草
ト云ル博聞ノ人アリテ安永天明間一本州十三
賦ヲ作レリ今終ニ鈴鹿郡賦兼名郡賦長島府賦
ノ三冊遺ル而已其餘未見郡縣慕古之士所傳ス
ルヲ不聞惜ムヘキノ到テリ近曾飯高郡西村和

廣所撰勢陽俚談二十餘卷アリ此撰ノ詳ナルト
ハ未見中々前誌ノ所起ニ比スレハ勉々リト謂
ヘシ然レ勢陽雜記ノ趣ニ拠テ録スレハ其前記
ヲ是トス故ニ増補スル処ニノ其差誤ヲ益傳ル
ニ至レリ其餘南郡ハ詳密ニノ北郡ハ未知処多
シ故甚疎也孰レ其訛ヲ潤色ス非トスヘシ寛
政中京師秋里舜福伊勢名所圖會六卷ヲ刊ス其
郡邑ニ至テ名勝地景神祠佛刹ヲ摸圖シ其事蹟
注ス大畧勢陽雜記及宮河夜話鈴鹿菜名賦ニ拠
レリ其餘土俗輕薄書生ノ腐談ヲ挙ク猶他邦ノ
人本州ノ境域事蹟ヲ不識傳聞及紙墨ノ解ヲ記
スル処差誤甚多シ此編中往々標出ニテ其非ヲ

辨セリ此舉前誌ヲ誣スルニ非ス後人ノ惑ヲ解
スルカ為ニ示ス其餘龜山悉領抄八十一記松坂
雜集素名圖會龜山畧記等其府城ニ所編アリ是
一城府ノ所屬ニ拠テ録ス州誌ノ總載スル処ニ
非ス猶其秘府ニ蘊スルヘシ未窺処ハ記ス
ルニ難シ概畧ノ前誌ノ所存此ニ及ヘリニ宮祠
官秘襲スル処ノ旧典及其地ニ録スル処甚多シ
然レ凡地誌ノ全篇ニ非ス漸クニ官篇中ニ標出
スルニ足レリ其軍記卷談ノ如キハ
中
北畠物語刊行アリ或ハ勢陽軍記ト題ノ畫圖ナ
キアリ神戸某寛永中所撰伊勢軍記アリ又勢陽
軍記真字及假字ノ二本アリ北畠物語ト異ナリ

伊勢兵乱記アリ勢陽雜記引扱スル所ニ同シ多
氣實記一本アリ此四五本世ニ傳ノ処ニ其
未見其府城ニ秘蓋スル処ハ猶アルヘシ本州郡
縣上世戦闘ノ擧ナシ元替中平氏殘黨征スルヨ
リ以徃替應中南朝ノ争戦永祿天正中織田ノ軍
役慶長中関西ノ徃等各東鑑及源平盛衰記南方
紀傳撰雲記信長記其餘近録ニ載ルニ至レリ多
ク所傳スルナシ總ノ前誌ノ記スル処亦名郡ヨ
リ首魁トスルモノアリ或度會郡ヲ魁トスルア
リ各其土人ノ所著ニ扱レリ前ニ載ル亦名ハ郡
縣ノ始テ建置スル処ト憶ヘリ故ニ此編ニ首卷
ニ載ス或云前誌勢陽雜記ハ安濃一志ニ其郡邑

ノ事蹤ヲ録スルニ詳ニノ其他ハ疎ナリ雜記拾
遺ハ北郡貞辨朝明三重ニ詳ニノ其他ハ甚疎ナ
リ名所圖會ハ二宮編ニ詳ニノ其他ハ疎ナリ勢
陽俚諺猶然リ所謂竜頭蛇尾ノ扱トスト謂ヘシ
然リ其郡郷ニ詳ナルハ土人ノ所撰常ニ目撃ス
ルノ地ニ扱レリ故ニ詳密ニノ餘部ハ疎卒ナル
ニ至レリ是紙上ノ談ニノ自登濟ノ研究スル処
ニ非ス只俚俗ノ諺云地爐兵法畠水練ナル故ナ
リ猶前誌ニ扱テ標出メ其差誤ヲ論ヒス全ク拘
泥スルニ扱リ潤飾増補スルノミニ數本ヲ閱
スト云ヘ氏一手ニ就ル者ノ如シ是卑俗ノ擧ニ
シテ論スルニ不足ト舍弃スルニ似リ然ル時ハ

此撰ナキニ如ス其故ハ其吐虚其激實ニ至ル後
ノ昆弟惑フヘシ後賢猶哂笑ヲ献スルナリ是ニ
批テ其志ニ非スト云ヘ氏自己ノ所生ノ本貫ノ
地ヲ論セス秦漢ノ域ニ至ルハ習俗ノ幣風ト云
ヘ氏覽者此举卑俗トスヘシ然レ氏前誌ノ妄誕
ニ堪ス其名區田蹤ノ隠蔽スル処ヲ患ヒ好古ノ
徵志黙スルニ難ク癡憤ノ其一ニ付論スルニ
至レリ其竜頭蛇尾ハ吾侪猶然ニ宮篇ノ重計ス
ル処ハ本州ノ最第一ノ神迹立基ノ地ニノ典故
古録若干卷所傳千万筆端ノ尽スハキニ非ス故
ニ其標出スル処千里ノ一步ナリト云ヘ氏卷冊
多ニ至レリ是ヲ以此撰ニ及テ猶此諦ヲ免ル事

能ハス郷人ノ知不知ノ弊ニ非ルヘシ其他郡ニ
至リ農談巷説ヲ採テ徵スヘキ典故ナシ故ニ其
俗談ニ從テ録スル多シニ宮篇ニ比スルニ甚疎
鹵ニ似タリ賜顧ノ士怪事勿レト云又此編ノ举
奇崑怪松俗謠俳優真ニ兎戯ニ相同ト本州ニ係
ル処一毫モ遺スルナシ其餘顧盼スルニ及ハサ
ルハ所批ナキニ至レリ是ニ批テ忌避スヘキア
リ或ハ秘蘊スヘキアリ其好醜ニ批ラヌ舉ル処
間アリ政ニ刊スルヲ許サス後來兎孫傳寫スル
ニ及テ烏焉ノ訛誤アルハ愚詎ニ非ス前誌ノ差
誤ヲ訂正スルニ於ル識量スヘシ

典故總論

此編 = 挙ル処古事記旧事記日本書記日本後記
續日本後記文德實錄三代實錄及百鍊抄東鑑等
ハ享和中東都板校保克一校本 = 抄リ或ハ本居
宣長排黙古事記 = 抄リ万葉集ハ加茂真淵黙或
契沖代匠記 = 抄リ好本ヲ閱テ此 = 引抄ス故 =
前誌ノ所載 = 異リリ其餘二十一代勅撰和歌集
其所出抄前誌 = 傳字ノ誤多シ其原本 = 属メ此
= 訂正セリ惣目伊勢風土記ハ元明天皇和銅五
年所撰 = ノ其後孝謙天皇朝校正ス又醍醐天皇
延長六年校正セラルル延長風土記ト稱ス各千餘
歳ヲ經テ湮滅シ惜シ偶余カ所閱ハ豊後武蔵

伊賀尾張伊勢出雲駿河国風土記七本 = 至レリ
悉ク盡簡殘冊 = ノ其全者ヲ不得猶文辞新 = ノ
元明帝朝 = 成ル処ノ真否ヲ決シ難シ出雲風土
記一本ハ全冊 = シテ古樸甚賞スハシ猶豊後是
= 次ク然レ氏全冊ヲ得ス其餘ハ歴史等 = 不合
異説アリ及古色ヲ失タルモノナリ悉ク信用シ
難シ猶伊勢風土記ハ三本ヲ閱スルヲ得タリ卷
尾日風土記殘冊十七之内伊勢負辨郡之餘卷求
藤大綱言高基卿之家本與宮本校合畢文和元年
壬辰八月下旬朝三大夫中原師行ト載ス卷首 =
氏部省圖帳ト題メ界中 = 書タルナリ○又一本
ハ卷首 = 日本惣目風土記第十二伊勢国ト題メ

卷尾曰右者以連明院家本訂之官本書寫校合不
違一點也天正二年二月八日中原忠胤判曰右
風上記殘冊十七冊之内伊勢国今度以台命之
故誤字一帰正者也寛文十年四月日大綱言源通
村在判ト記セリ神風徵古録引概スル処前ノ余
カ所閱ノ民部省圖帳ニ同シ又背書国誌所引ハ
是ト不同釋日本紀所引ノ記ニ雷同ス本居宣長
謂釋日本紀及仙覺万葉抄撰出ノ時ハ總国ノ風
土記モ遺レリト云是各元明朝所撰ノ古風土記
ナルヘシ伊賀風土記ニ異本アリ其真否ハ新古
ノ文段ニ分明ナリ此餘未知此編ニ所抄録ハ此
ニ同レリ○又神宮~~典~~異同アリ世本倭姫命世

紀猶更ナリ度會延佐所校ヲ取り用多然レハ古
撰ヲ失フニ及ヘリ其所傳ヲ詳ニスルニ度會延
貞蟄居記談曰神宮最重神書十二卷ヲ簡テ調御
倉ノ神體ノ假櫃ニ納ムト云事文治元年記ニ見
エタリ文明中ノ兵火ニ正殿回録セシカハ御倉
焼失ノ十二卷~~氏~~ニ亡ルナルヘシ古記ニ此時
山田掃地焼ト記ス○又行忠神主ノ藏書山田西
河原極樂寺ト云ニ藏置テ遺レリト云事ナシ承
應ノ初年尾州大湏宝生院宝藏ニ伊勢神書~~氏~~ヲ
藏傳ルト云ヲ聞テ尙舎道直~~後改~~急ニ尾州宝
生院ニ往テ仰蕪ヒシカハ行忠親蹟ノ神藏十二
卷ノ目書神宮雜事記下卷神祇本源末卷六卷ヲ

許ニタルヲ書字ノ帰リ又又尚舎神学ヲ好ニ神
ニ報スルノ功成リテ右ノ古記神宮ノ財トナル
其功後世ニ及ヘリ憶ノニ行忠ノ蔵書ヲ宝生院
ニ蔵ムルハ極樂寺ヨリ轉傳ヒシモノナルヘシ
倭姫世紀應仁文明ノ頃ノ乱ニヤ絶ケニ兵神宮
ニ傳ハラス寛文九年正遷宮アリ因テ御樋代尚
望ノ為ニ僕神宮惣代トシテ東都ニ下リケリ在
府ノ内神道者吉河惟足ト数々參會ヒニ時保科
肥後守伊勢三部ノ秘記御覽アリクキ由惟足ヲ
以仰テルニ因テ其古書ヲ呈シ倭姫世紀肥後守
ニ有ル由聞及フカ故ニ惟足ヲ以テ借申タキト
願フ処拜借アリ心鑑ニ是ヲ写シ今ノ世紀ノ奥

書ニ賀茂縣主保可下アルハ即肥後守ヨリ出シ
本ナリ黒瀬一稿益弘モ又江戸ニ在ニ時此肥後
守ノ本ヲ拜借シ写ストナリ此後京都ヨリ古書
ヲ販ク者世紀ヲ持来リ出口延佳是ヲ需ム此書
山田ニ弘マレリ云云其旧典應仁文明ノ後二宮
ニ所襲是ノ如シ今世本ニ賀茂縣主保可ノ卷後
ニ名署アル多シ又行忠名署ノ一本アリ是尾州
ヨリ所出ナリ延佳校本ハ又一本ナリ然レハ大
畧賀茂本ニ相同シ今此編ニ所引ハ余所蔵ノ一
本ニノ卷尾云大治四年十二月廿七日書寫之畢
外權祢宜度會神主雅時丁卯歲五月書寫之豊受
大神宮祢宜正四位上度會神主章尚于時應永廿

五年仲夏端午後一日書字畢此書諸本ニ校スルニ甚異ナリ然レモ古撰賞スヘキニ足レリ故ニ此本ニ拠テ抄録スル処ナリトメ訝ルヲ勿ルヘシ度會清在園燈閑談曰檀垣章尚此家ニ書籍多シ古記ノ興書ハ多クハ章尚ナリ又神代卷ニ章尚本ト云學者ノ一證トスル本アリ彼家ニ竹ヲ編テ書クル書經全部アリ寛文回録ニ烏有トナリ又云是識者ノ賞スル処ニシテ其徴トスヘシ今憶フニ世本多ク延佳校本ニ拠レリ此章尚本ハ二宮ニ今不傳ノ古色ヲ不知ノ不取ルニ似リ所襲スルニ至テ何ソ取サルヘキナシ前説ノ如ク其兵革ニ罹リ旧典既ニ神宮ニ絶廢セントス

延佳熙近等苦懇ニシテ漸ク其傳ヲ不失ニ至リ今其徒ノ空キニシテ文明盛化ニ浴シ書典ニ飽テ蔑如スルニ至ルハ其罪大ナリトスヘシ此ニ勲績ヲ奉テ後学ノ幼童ヲ諭ス故ニ筆力ヲ費スニ至レリ前説ニ拠ル時ハ慶安寛文延宝間ニ至リ其書ヲ全備スル処ニシテ勢陽雜記所撰ニ同時ナリ亦勉タリト謂ヘシ

冠名總論

僻言伊勢 古曰僻言ノ伊勢国ト冠スルハ旧キ辞ナリ鴨長明伊勢記及名寄ニ出タリ

伊勢人ト云ヒシニ中シルヲ津島ノ甲斐向方ケルツノ原

又堀川次郎百首

藤原忠房

伊勢イセヤ日向ノ物語ト謂フモ對馬甲斐和泉美

作ノ地名ヲ混セシテ僻言ト詠ルニ同シ各三

重郡大沼田村條ニ詳ニセリ

諸物ニ伊勢ノ字ヲ冠ノ世俗ノ称スルハ古昔ヨ

リ傳ルモアリ近曾戲ニ名クルモアリ或土産海

物ニ屬テ遠境ノ詣客ノ賞スルモ多シ所謂

伊勢歌 伊勢歌或伊勢曲ハ相摸哥常陸田甲斐

歌等ノ類ニテ其国俗ノ謠ヲ処テ大歌所ニ記

傳タルナリ古今和哥集ニ載ル処ノ如シ

伊勢雄海士 此国人海嘯ニ居ノ漁ヲ業トス海

民ヲ謂ナリ

伊勢島 或伊勢海 和哥ニ咏スル多シ此国ノ東

南ニ海島多シ古昔志摩州モ本州ニ屬ス志摩

ト称スルモ島岐ノ謂ナリ故ニ本州ニ同ク古

ニ謂フ処ナリ

伊勢濱萩 當国ノ芦萩ヲ指メ称スルナリ

伊勢宗鑑 荒木田武清山崎宗鑑ノ手墨ヲ慕習

ケルニ其極ヲ得テ宗鑑真蹟ニ見紛ヒケレハ

京ニテ伊勢宗鑑ト謹名セリ宗鑑手跡ヲ習ヒ

シ人モ多アルヘキニ古筆鑑定記ニハ高野山

二階堂清岩ハ宗鑑流也ト記スト云ヘ氏武清

ニハ劣レリト云

伊勢論語 大永年中内宮ニ称宜荒木田守武ノ

咏ル世中百首ヲ世ニ称ノ伊勢論語ト云卷首

世の中此親子孝らば人々たれはしはるくもたのしきん

ト咏ルハ孝百行本曾子曰事君不忠非孝也莅

官不敬非孝也朋友不信非孝也戰陣無勇非孝

也此哥ト符契ヲ合セリ猶百首ノ体教導ヲ要

領トス此ヲ以テ論語ノ名ヲ冒スルヘシ

伊勢俳諧 古今集以往ノ俳諧哥ニ原キ俳諧ト

称ノ五八句ヲ口號スルノミニシテ百韵ニ満

ヘキナシ享祿三年正月荒木田守武百韵ヲ聯

テ天文九年独吟千句ヲ綴ル是聯句百韵千句

等ノ権輿ナリ其後山崎宗鑑独吟千句ノ輿ル

アリ然ノ松永貞徳御傘淀河等連歌式ニ倣テ

禁忌ノ書著述成リテ俳諧大ニ興レリ故ニ伊

勢俳諧権輿ノ称アリ

伊勢茶樂 杉木普齋茶道ヲ嗜テ今日菴宗旦ノ

門弟ニノ一世ノ名アリ万治年中ノ人ナリ茶

人華押藪曰普齋号有麥庵住勢州山田受茶法

於宗旦ト載ル処ナリ

伊勢尺八 荒木田氏秀尺八ヲ造ルニ絶巧ナリ

氏秀切ノ尺八ト称ス勢居紀談曰荒木田氏秀

ハ尺八ヲ切ル事上手ナリト云傳ヘケル

八木但馬守當地ノ奉行タリニ時此地ニ氏秀

切ノ尺八有ヘキトテ尋ラルニ識ル人ナシ氏
秀ノ尺八ハ歌口ノ処ニ伽羅ヲ一寸ホトニ切
リ彫入タルハ見紛ナキモノト宣ヒケル云云
伊勢三座 猿樂大夫和屋勝田青王ノ三座ナリ
今青王ハ絶タリ毎歳正月ニ宮域ノ外ニテ神
奏ノ翁舞獅子六舞ノ曲ノ散樂ヲ修ス例式ア
度會郡通村ノ條ニ可載テ故アリテ畧ス
伊勢曆 飯高郡丹生村及宇治山田ニ製ノ諸州
ニ土産トス贈ル処ナリ
伊勢姫 小兒育州曰兒子誕生ノ地ニ下ル時收
婆ニ命ノ臍帶断テ産湯ヲ浴シテ取奉ルナリ
收婆和名子トリ又トリアゲバ、又伊勢バ、

ト云フトナリ其謂ハ世俗所言ノ伊勢ノ字ニ
配スル諺ナルヘシ

伊勢大工 此国ノ番匠家造ノ時高梁危檐ニモ
能奔リ登リ飛蹴ル事他州ノ匠ヨリ勁捷ノ勝
タルヲ称セリ

伊勢福室 此地ノ民其蒸氣ノ燥熱ニヨク堪ル
故ニ然名テ謂ナリ

伊勢壺 旧昔河曲郡土師村ヨリ陶工造リ出ス
今其業廢セリ是ヲ伊勢壺或伊勢瓶子ト称ス
源平盛衰記ニ伊勢平氏ハ酢瓶ナリト五節ノ
夜諷曲アリタルハ此謂ナリ
一休禪師題梅法師詩云

五月黄梅没落時起青道心成法師

欲問疎影橫斜古伊勢壺底暗皺眉

伊勢天目 田尾張州春日井郡瀬戸ヨリ陶工造

リ出スト云ハ此州ニ多ク販ク故ニ他州ノ

人伊勢ノ名ヲ冒メ称スルナリ

伊勢手茶入 此地ノ茶匠尾州瀬戸ニ至リ一家

ノ風流ヲ焼出タルノ名ナリ

伊勢船 艦ノ形ヲ高ク登キ舦テ造ル伊勢造リ

ト称ス是一種ノモノナリ猶諸州海船多ク度

會郡大湊ニ造リ故ニ古今混メ謂ルナリ

伊勢踊 或伊勢音頭 曲節音調一種ノ舞蹈アリ

伊勢音節ト云モ同ニ娼家ノ哥妓ノ一曲節ナ

リ

伊勢路 四十八町ヲ一里ノ程法トス何ノ時ヨ

リ定置スル処未詳然レモ今一州然ルニ非ス

三重郡東街道追分村ヨリ以南宇治山田ニ至

ルノ間驛路四十八町ノ定積ナリ其餘郡邑ニ

定ムル地ナリ各私称スル処ナリ官道ハ三十

六町ヲ定置スル処ナリ

伊勢富士 度會郡牧戸村ニ一小山アリ秀峯園

ニノ富士峯ニ似タリ山頂淺間祠ヲ祀レリ四

邊ノ山脉ニ離テ獨立ス故ニ此名アリ又飯高

郡伊勢寺村ノ西ニ堀坂山アリ其形勢聳秀夕

夕

レハ他ノ山ヨリ高嶺ナリ頂上淺間祠ヲ祀ル
毎歳五月近邑ノ民俗登テ群詣セリ是ヲ富士
岳ニ比スルヲ以テ名ニ冒ス処ナリ

伊勢櫻 淺紅重瓣ナル花ナリ曰古此州ヨリ始

テ出ス処ナルヘシ或ハ小朝熊神社ノ木華開

耶姫命ノ遺蹟ニ拠テ名ヲ賞ス氏云ハリ

伊勢切付 其昔河曲郡河原田村ニ産ス庭訓往

来ニ載タリ

伊勢椿 飯高郡丹生村丹生大明神ノ社前ニ古

樹ノ椿アリ色紅ニノ葩一重ノ内ニ藥心ハ大

ニ抽出ス名花ナリコレヲ傳接ノ諸州ニ称セ

伊

伊勢白粉 輕粉ナリ飯野郡射和村ニ製ス

伊勢鯉 鯉魚ヲ云俗ニ名吉ト称ス其色形鯉ニ

似タルユハニ尔云名吉ハ土佐日記ニテ

カハト記スヲ音ニテ唱タルナリ度會郡ノミ

ニ限レリ

伊勢海老 川蝦小蝦ハ本州ニ産スト云ハ氏老

蝦ハ志州ニ販クモノナリ伊勢志摩ヨリ京師

ヘ送ルユヘニ伊勢海老ト云尾州ヘハ志摩ヨ

リ送ルユヘニ志摩海老ト称ス東武ニテハ相

州鎌倉ヨリ同品ヲ出ス故ニカマクラエヒト

云 伊勢海老ノ事林道春庖丁記ニモ載タリ

伊勢熨斗

伊勢鯉

伊勢鯨

伊勢鰯

此類當國ニテ稀ニ捕シ事モアリ多ハ志摩国

或紀州熊野浦ニテ捕テ此地ニ販キ他所ニ送

工ハニ伊勢ノ字ヲ冠ヒリ

伊勢海苔

伊勢青海苔

伊勢和布

伊勢編笠

伊勢菅笠

伊勢足袋

伊勢出刃庖丁

此類ハ當國ノ産物ナリ

其餘庶民ノ傳ノ処早俗ニ至リテ其伊勢ト称ス

品多ニ枚奉ニ違アラス

五鈴遺響首之卷下終

Faint, mostly illegible handwritten text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

此の鈴道屋々祖父廿餘り...
海草をわし...
形をせしに...
いふも...
本末...
いふ年の秋...
ぬみたる元...
こうま...
相済...
そ...
に...
そ...
そ...

かり筆も只祖父の教の端も交うねく多れを修字
ちうね又ハ少信ハあるもともお海きを清みなり
子乃そのいそくさくを家一見あふ人もゆれり
孫くー

伊勢人安岡元剛親毅

孫親成



たぐに紫条の面れ方以ていふ
さるのまねいれすま

紙数 六拾九枚

69





内閣
文庫

